

第3節 旧石器時代の調査

1 概要

本遺跡からは118点の旧石器が出土している。石器は斜面地の中のわずかな平坦面という、旧石器時代遺跡としては例外的な場所から、6 m四方の範囲で検出された。C字形の特徴的な分布は、テント等の構造物に関連する可能性がある。出土層位は、ホーキ火山灰(火山砂)が二次堆積した土層中である。石材としては94.9%が黒曜石で占められ、11組の接合資料を含んでいる。うち3組には小石刃石核が含まれ、剥片剥離技術を復元できる。周辺加工尖頭器や彫器など、当地域では珍しい石器を組成する石器群であり、編年上また他地域との関係を考える上で重要な資料である。

層位と製作技術上の特徴から、後期旧石器時代後半期の、ナイフ形石器文化期と細石刃文化期の間に位置づけられると考える。

表2 旧石器母岩別組成表

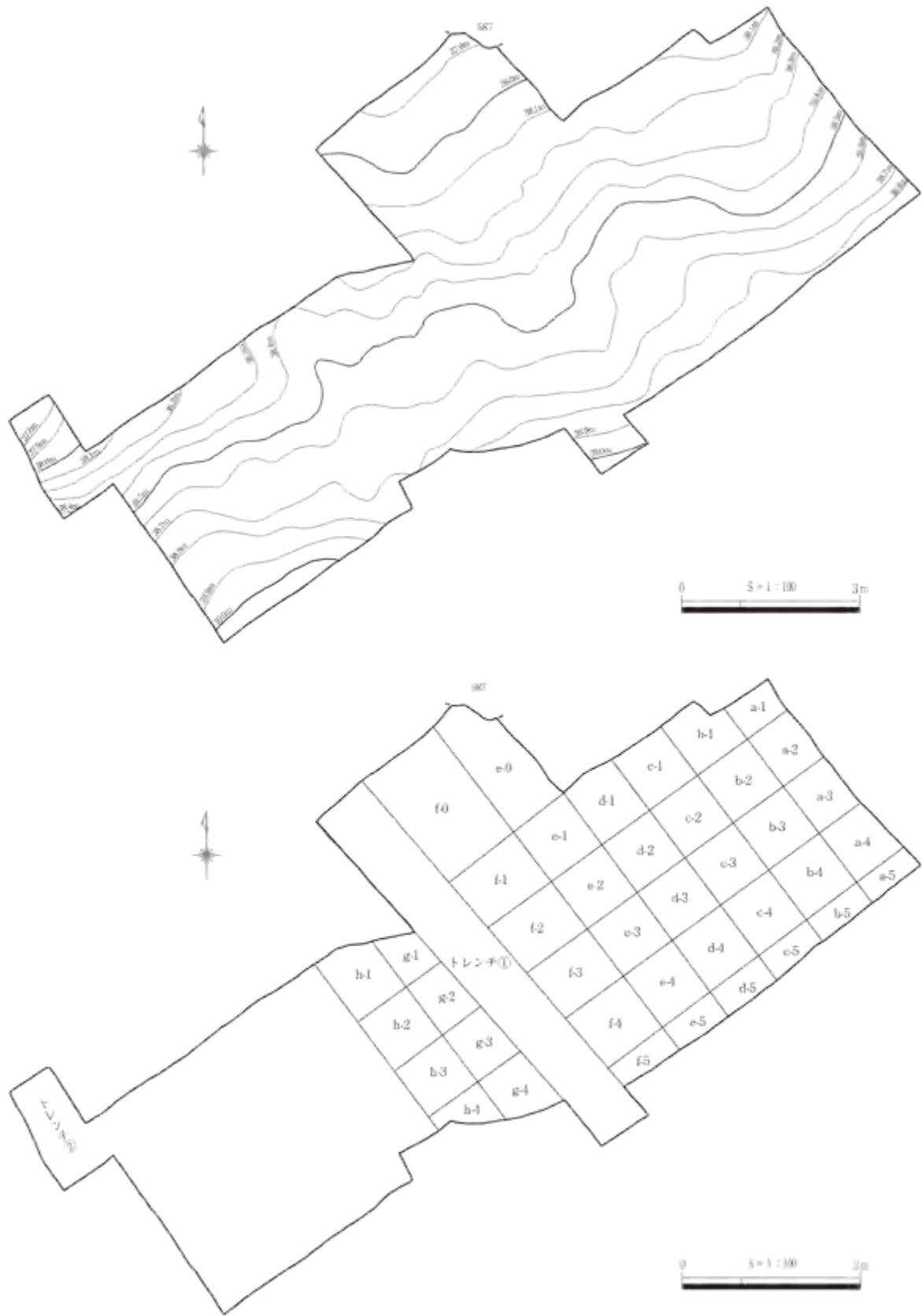
	尖頭器 (g)	厚形削器 (g)	掻器 (g)	彫器 (g)	剥片(二次) (g)	石刃 (g)	小石刃 (g)	細石刃 (g)	剥片 (g)	碎片 (g)	石核 (g)	母型 (g)	石核片 (g)	計 (g)
母岩1							1 (0.20)		20 (61.04)		1 (18.39)			22 (79.63)
母岩2									10 (7.72)	1 (0.21)		1 (41.34)		12 (49.27)
母岩3	2 (10.82)	1 (18.44)			1 (5.93)	2 (8.96)	2 (1.59)		11 (14.55)	3 (0.25)				22 (60.54)
母岩4					4 (34.4)		2 (2.30)		8 (18.84)	6 (1.26)	1 (12.79)			21 (69.59)
母岩5									2 (6.87)					2 (6.87)
母岩6					1 (4.50)				2 (5.23)				1 (6.18)	4 (15.91)
母岩7									5 (5.21)	1 (0.20)			1 (11.54)	7 (16.95)
非識別 (黒曜石)			1 (24.58)		1 (0.78)			3 (0.37)	5 (45.76)	11 (1.94)	1 (8.68)			22 (82.11)
サヌカイト (母岩8)									2 (2.76)	1 (0.21)			1 (30.06)	4 (33.03)
玉髓					1 (28.37)									1 (28.37)
珪岩					1 (3.92)									1 (3.92)
計	2 (10.82)	1 (18.44)	1 (24.58)	1 (3.92)	8 (73.98)	2 (8.96)	5 (4.09)	3 (0.37)	65 (167.98)	23 (4.07)	3 (39.86)	1 (41.34)	3 (47.78)	118 (446.19)

2 調査の経過と方法

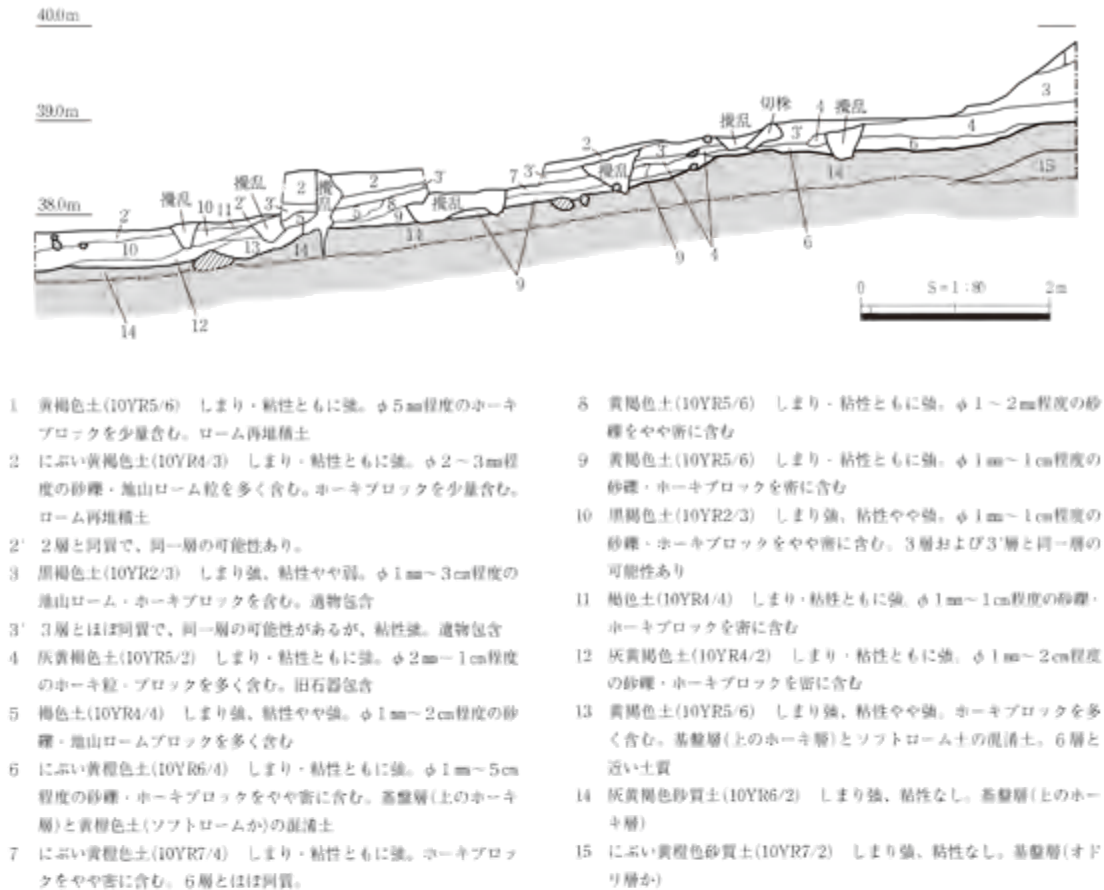
A区のE5グリッドにおいて、SS2法面の清掃中に石器1点が出土したことから、SS2平坦面上に旧石器ブロックが存在する可能性が考えられた。

まず、石器出土地点周辺の層序を確認するため、SS2にほぼ直交するように、北西-南東方向に11m×1mのトレンチ①を、確認調査のTr.2に連続する形で、北西-南東方向に2m×1mのトレンチ②を設定した。トレンチ①の南東側半分を中心に、4層中で石器が多数出土した。4層はホーキブロックを多く含む灰黄褐色土であり、ホーキ火山灰の二次堆積土と考える。その下の6層はにぶい黄橙色を呈するホーキ火山灰と黄橙色土(いわゆるソフトロームか)の混雑土であり、これもホーキ火山灰の二次堆積土と考えるが、無遺物層であった。さらに下の14層は上のホーキ層である。一方、トレンチ②では、遺物は出土しなかった。

この結果、トレンチ①の北東側および南西側を面的に掘削するようグリッドを設定した。トレンチ①を中心に、北東側で6×5m、南西側で2×4m程度の調査区を設定し、個々のグリッドが1×1mになるようメッシュを組んだ。北東側では北東から南西に向かってa~f、北西から南東に向かっ



第10図 旧石器調査区地形測量図(上)・グリッド設定図(下)



第11図 旧石器調査区土層断面

て1~5の記号で示し、たとえば最北隅をa-1グリッドと表した。同様に、トレンチ①の南西側では、北東から南西に向かってg・h、北西から南東に向かって1~4の記号で示した。

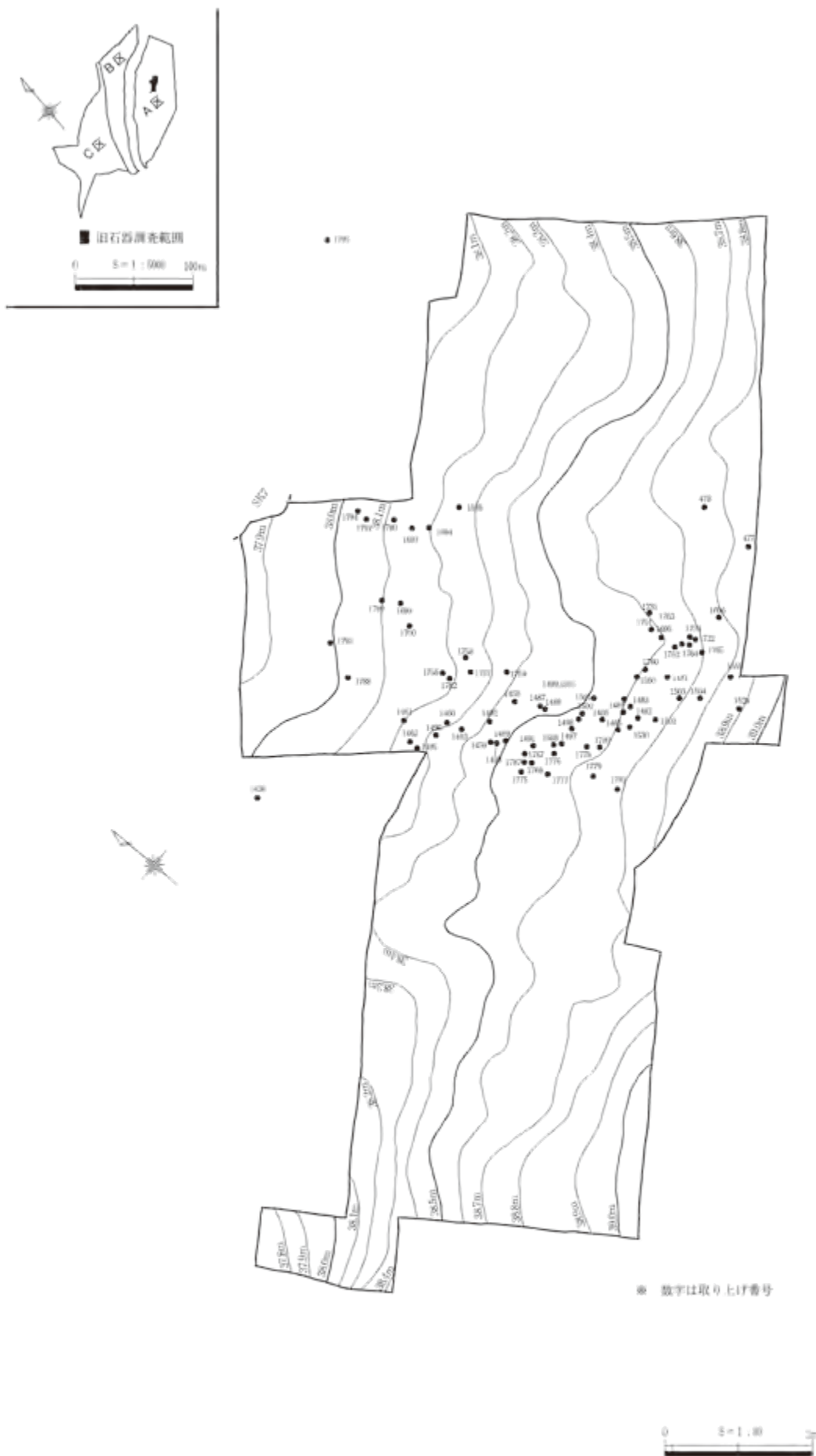
まず、a-1グリッドから順に千鳥状に掘削を行った。次いで石器が出土したe~hグリッド列については、千鳥状の未掘削部分も掘削することとした。その際発生した排土については、篩にかけた。

さらに、e-1、f-1グリッドからも石器が出土したことから、調査範囲を北西側に延長し、拡張した部分をそれぞれe-0、f-0グリッドとした。これらの拡張部分からも石器が出土した。

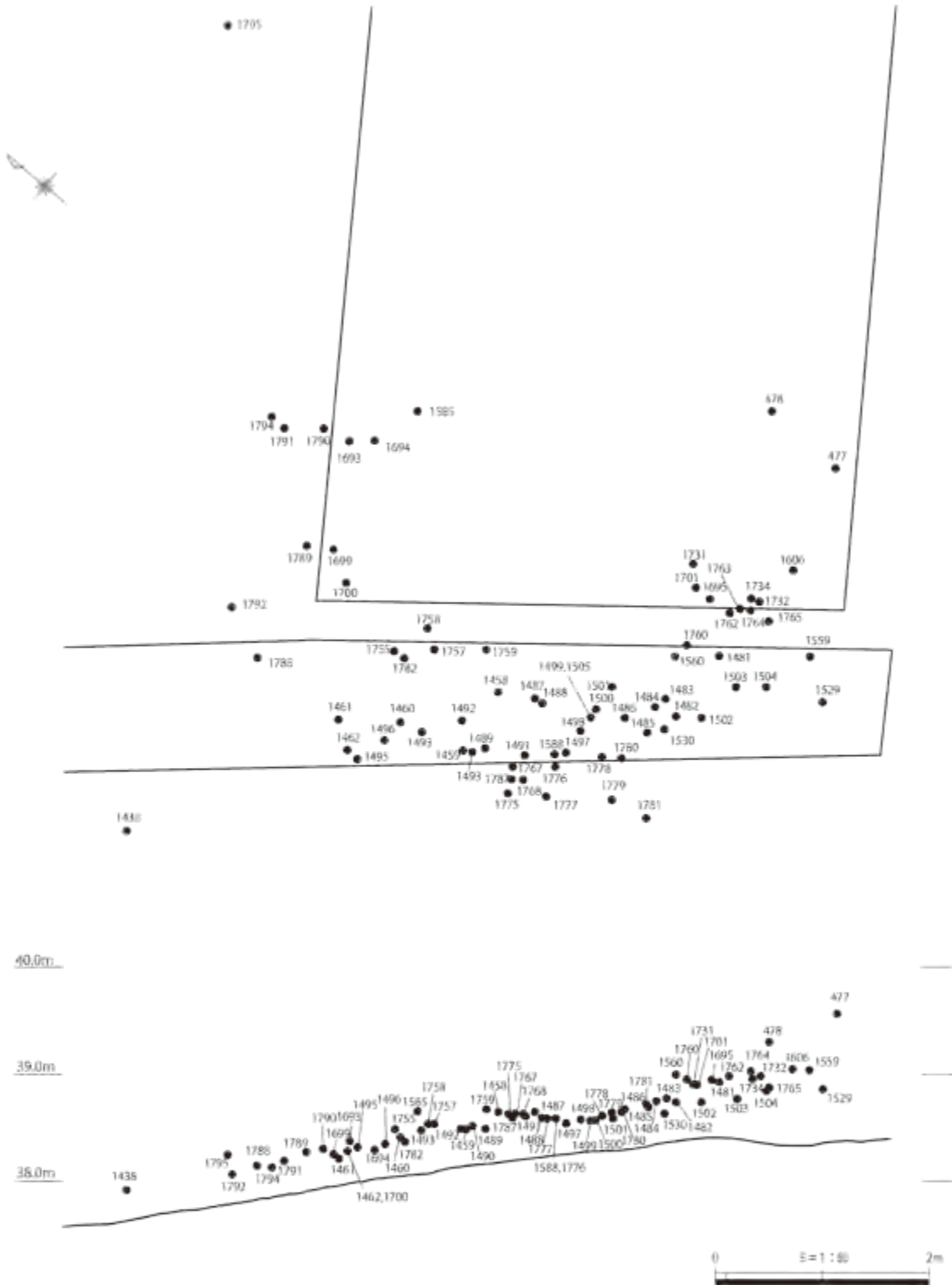
3 出土状況

旧石器は、A区中央やや北寄りのE4・E5・F4・F5グリッドにおいて出土した。地形的には、幅約15m、奥行約6mの、北西に向いたテラス状の狭い平坦面にあたる。石器は、平面的には南北方向にCの字を描くように帯状に分布する。外径は約5.8m、帯の幅はおよそ1.5mである。中央の空白部分は径約3mを測る。石器ブロックとしては特異な形状であり、テントなどの構築物に関係する可能性がある。しかし、空白部分からは遺構は検出できなかった。後述するように、C字状の分布の中央部はほぼ剝離物で構成されるのに対し、石器は端部に集まる。なお、石器にはトレンチ調査や水洗篩別で回収したのものがあり、出土位置を記録できたのは118点中79点(66.9%)である。

石器の垂直分布を第13図に示す。地形の傾斜に合わせて分布も傾斜するが、ほぼ同一平面に乗っており、上下の幅はほとんどない。埋没後の移動は顕著ではないと判断される。



第12図 旧石器遺物出土状況(1)



第13図 旧石器遺物出土状況(2)

第3章 調査成果

石器は4層中からまとまって出土し、標高は38～39mを測る。4層は厚さ10cm前後で、ホーキ火山灰のブロックを多く含むことから、二次堆積によって形成されたものと考えられる。明るい色調から上のホーキ(25000～22000年前のある時点)を母材とするとみられる。5層および6層にも上のホーキが含まれることからすると、4層の年代は上のホーキの堆積から相応の時間差を考えるべきと思われる、石器群の年代は後期旧石器時代後半段階の後半と推定される。これは石器の型式や製作技術から推定される年代(ナイフ形石器文化期以降細石刃文化期以前)とも矛盾しない。4層の形成は二次堆積によるが、他の土砂の流入や地層の逆転、明らかな境目は認められないので、堆積は一定の速度で緩やかに進行したと考えられる。したがって、本石器群は、4層の堆積中のある時期に同一平面上に遺されたものが、後続する堆積に覆われて埋没したものと考えてよいであろう。二次堆積土中にはあるが、石器は二次堆積したものではなく、原位置を大きくは動いていないと思われる。

4 出土遺物

本遺跡から出土した旧石器は計118点を数える。石材は112点が黒曜石で圧倒的多数を占める。黒曜石は7母岩に識別でき、その他に石器や石核の形で搬入された非識別資料が若干存在する。接合資料を含み、剥離作業の主体となったと考えられるものは4母岩ある。うち2つは1つの石核だけに関わるもので、石器製作は1つの母岩(母岩3)を中心に行われる。このほかに少量のサヌカイト・玉髓・珪岩製の石器や剥離物が出土しているが、サヌカイト以外は製品として搬入されたものである。

石器の組成は表2のとおりである。定形的なツールは周辺加工尖頭器が2点、厚形削器が1点、搔器が1点、彫器が1点である。いずれも個性的な石器で、この地域では出土例が乏しい。母型1点を含む石核はみな小型で、小石刃を生産するためのものと考えられる。尖頭器の素材となる石刃の剥離技術は、ナイフ形石器のそれと幾分異なる特徴をもつ。ナイフ形石器も、押圧による細石刃も含まれないので、両者の間に位置する石器群と考えられる。石刃の剥離技術や二次加工の様態には、ナイフ形石器文化の伝統が残っていると評価されるので、後続する時期に属する可能性が高い。

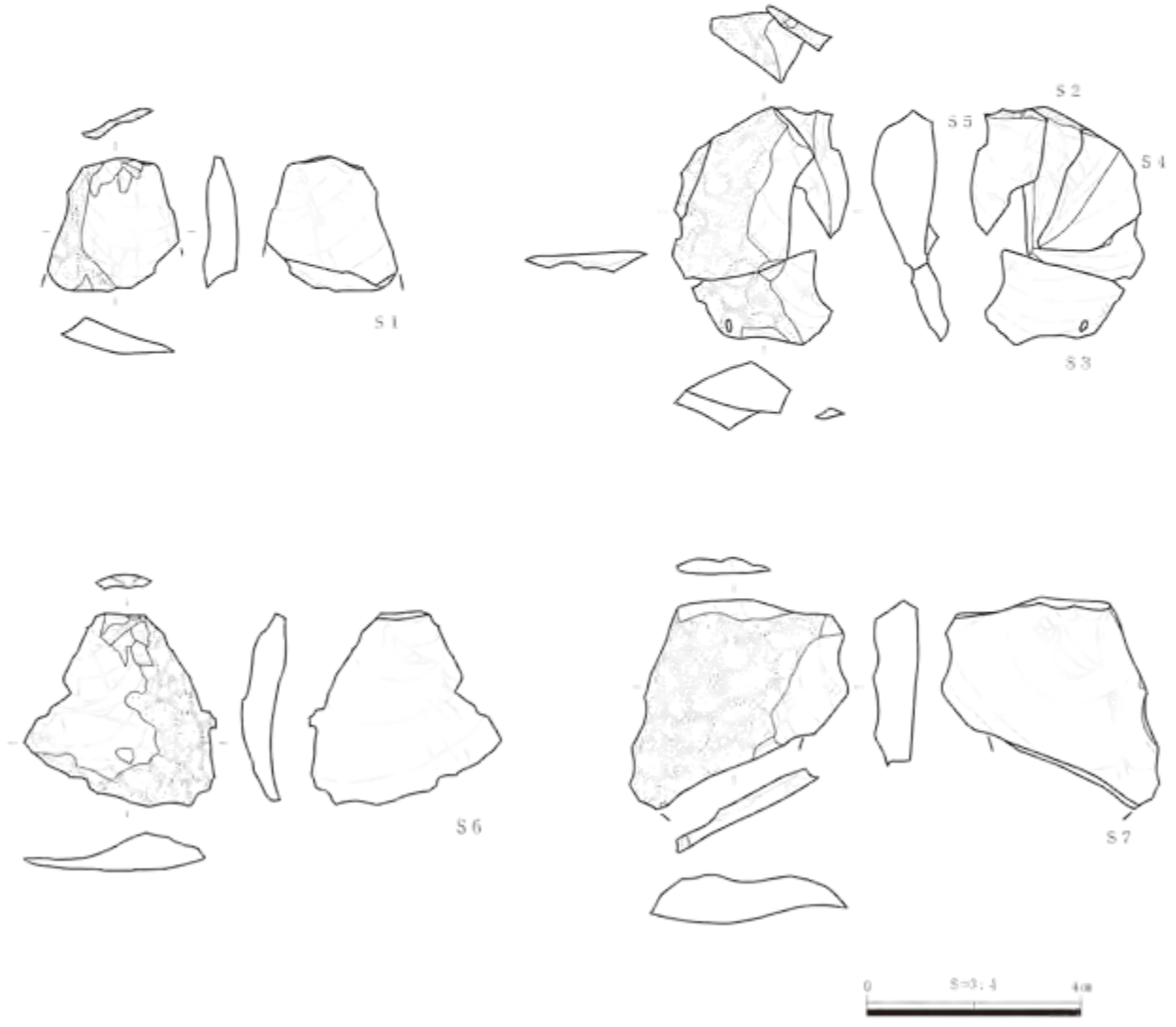
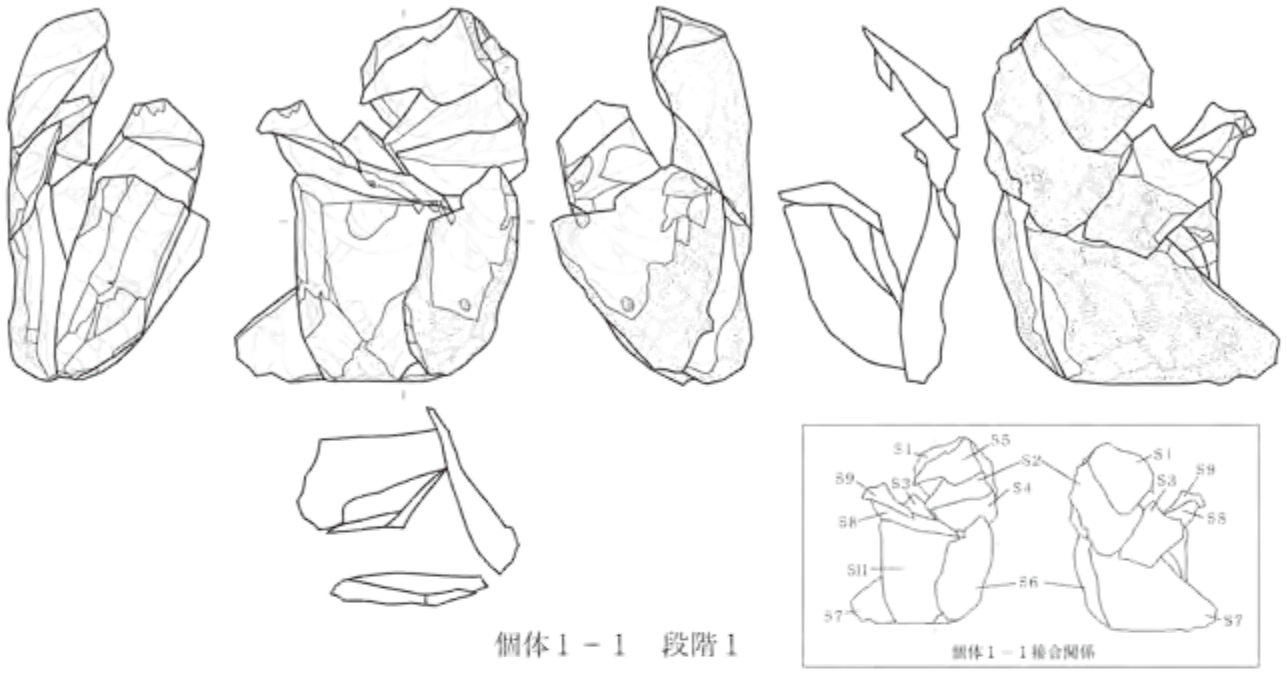
母岩1(第14～16図、PL.70・71)

透明度が低くやや青みがあった良質な黒曜石。1つの小型礫に由来する。22点を識別した。

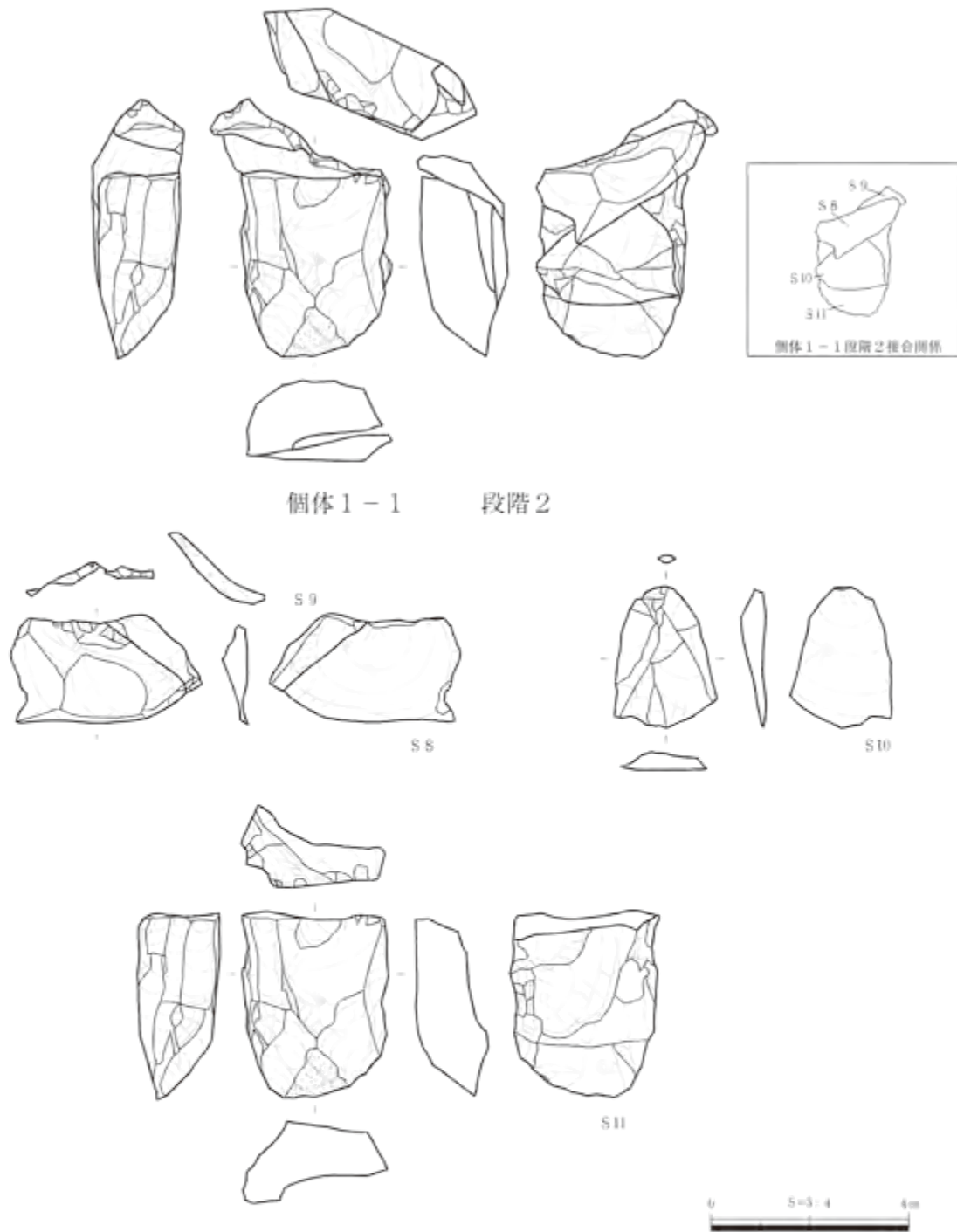
個体1-1は石核を含む11点の接合例。剥離経過は3段階に分けられる。

素材は6×5×4cmほどの円礫。段階1ではほぼ全面の礫面を除去する作業を行う(S1～S7)。除去は長軸の一端から開始し、交互剥離を用いながら行う。いずれの剥片も比較的大きく厚いため、段階1が終了した時点で、素材の容積は半分以下になってしまう。母岩2における石核母型の形成が容積を最大限活かしているのと比較して、かなり材のロスが大きく粗雑である。

段階2では石核の前形成を行う。目指すのは全形が楔形で小石刃を小口割りする石核である。まず表面の平坦面を作出し、次いで、表面中央を厚さの方向に叩いて石核打面を形成する。段階1の結果、打面側の面は全形に対しかなり傾いていたため、平らに修正するのに数打を要している。S8+S9はこの時の打面形成の剥片である。最後に両側の長側縁に稜線を形成しながら石核の外形を整え、かつ表面の平坦化を施して小石刃の連続剥離が可能になるようにする。左側縁は、表面側への細かな剥離で大過なく整えられている。右側縁は、裏面側への大きめの剥離で整える。S10は問題なく取れているが、次の剥離が反転して裏面を大きく窪ませてしまう。それでも作業は継続されて稜線は形成さ



第14図 母岩1(1)



第15図 母岩1(2)

れるが、結果的にこちら側の稜線だけでなく容積の3分の2を利用できなくしてしまう。

段階3は小石刃の連続剥離である。かろうじて利用できる左側の側縁から、長さ3cm幅6mmほどの先端が先細りとなる小石刃を小口割りする。細かな調整で打面を整形したのち、押圧ではなく打撃によって小石刃が剥離されている。小石刃剥離が反転の連鎖を起こし、かつ石核裏面のくぼみに作業が達したところで石核は放棄される。良好な小石刃は5枚程度しか取れていないであろう。礫面の除去の粗雑さと石核前形成終盤の決定的な事故によって材をほとんど無駄にってしまった例である。

S12～S22は非接合資料。S12は段階1の礫面除去の、S14～S16は段階2の打面形成の剥片であ



第16図 母岩1(3)

第3章 調査成果

る。S17は段階3の小石刃の破片とみられる。

母岩2(第17・18図、PL.71・72)

鈍い光沢をもつ漆黒の黒曜石。母岩4に似るが礫面が異なる。質は悪くない。

握り拳大の円礫を素材に小石刃石核の前形成を行う。まず裏面側を中心に、薄く大きな剥片を、側縁を重ねて取りながら礫面を除去し滑らかに整える。礫面のうち一边は石核背面として残す。次いで表側からの1打で打面を形成する。このように前もって遠くの打点から石核を形成すれば打点付近の予期せぬ傷や打瘤の窪みを避けて、石核母型の表面を平滑に仕上げることができる。割り手の技量の高さを窺わせる。その後で、表側への剥離で稜線を作成しながら表面を平滑に仕上げる。最後に打面と表面を部分的に剥離して打面縁部を整えておく。稜線は真直ぐで断面形も側面形も適切な曲率を示し、すぐにでも稜付小石刃が取れる状態である。しかも完成した母型は、いわゆる舐先形で、石刃の連続剥離のためには理想的とされるものである。にもかかわらず、一打の小石刃剥離さえ試みられずに放棄されてしまうのは理解に苦しむ。打面が裏側に僅かに傾斜していることは唯一の小さな欠点であるが、小石刃剥離の終盤まで問題は顕在化しないはずであり、途中で修正は可能である。完成した母型のことを忘れてしまったとしか思えない。さもなければ、技量の劣る母岩1の割り手などに母型の作り方と理想的な形の手本を示したものかもしれない。

個体2-2および非接合資料は、形態や礫面の付着から考えて、この作業で出たものとみてよい。

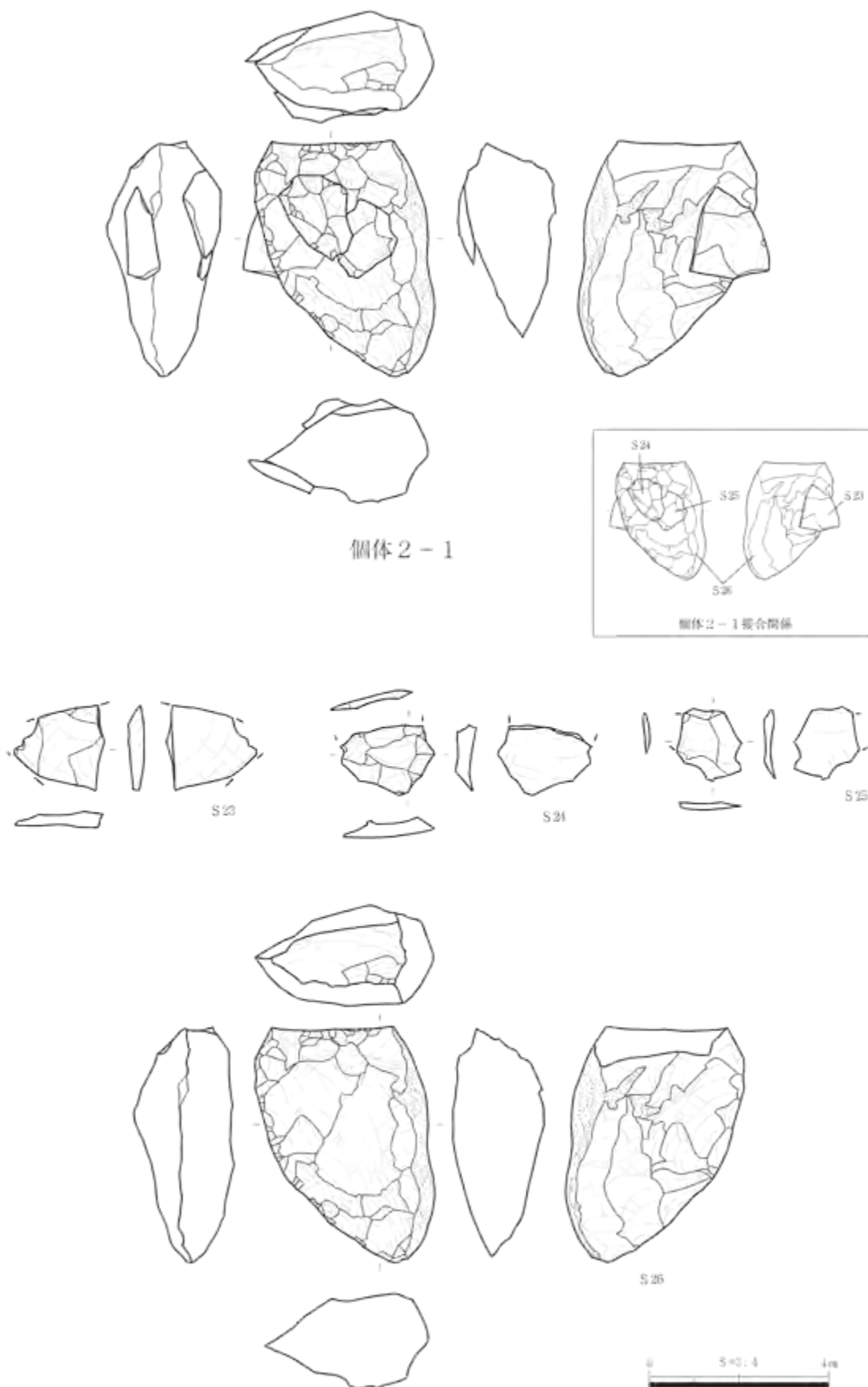
母岩3(第19~21図、PL.72・73)

ガラス質で黒色を主体に白い縞模様が入る良質な黒曜石。比較的大きな礫を複数の個体に分けている。周辺加工尖頭器が製作されるのはこの母岩のみである。同一母岩から石刃と小石刃の石核が作られる。

個体1-1は3点の石刃が接合したものの。いずれも打面部を折損するため、石核上半の様子は明らかでない。この石核の特徴は、末端部に縁部が作出されていることにある。縁部は弧を描くので、単なる対向打面ではない。石刃も稜線の開き角が大きく幅広である。したがって石核はルヴァロワ石刃石核のような形態を呈するものであろう。対向方向の先行剥離面が顕著に認められるので、反転事故等を解決するための副打面というよりは、石刃の形態を予定づけるために両方の打面を主打面に用いたものと推定される。

S34はこのような石刃を素材にした石器である。先端を欠くがおそらく尖るであろう。二次加工の角度は小さく、ブランディングとは呼べない。さらに、良好な刃縁を取り去って、ナイフ形石器であれば刃縁にあたる部分に礫面を充てるのは不自然である。周辺加工の尖頭器に分類すべきもので、その素材である幅広で薄い石刃を獲得するために、上記のようなルヴァロワ的な石刃石核を用いたと思われる。個体3-2は、横形剥片が2点接合したもので、個体3-1の石核縁部の形成に関わるものであろう。S37は末端に微細剥離が連続する。

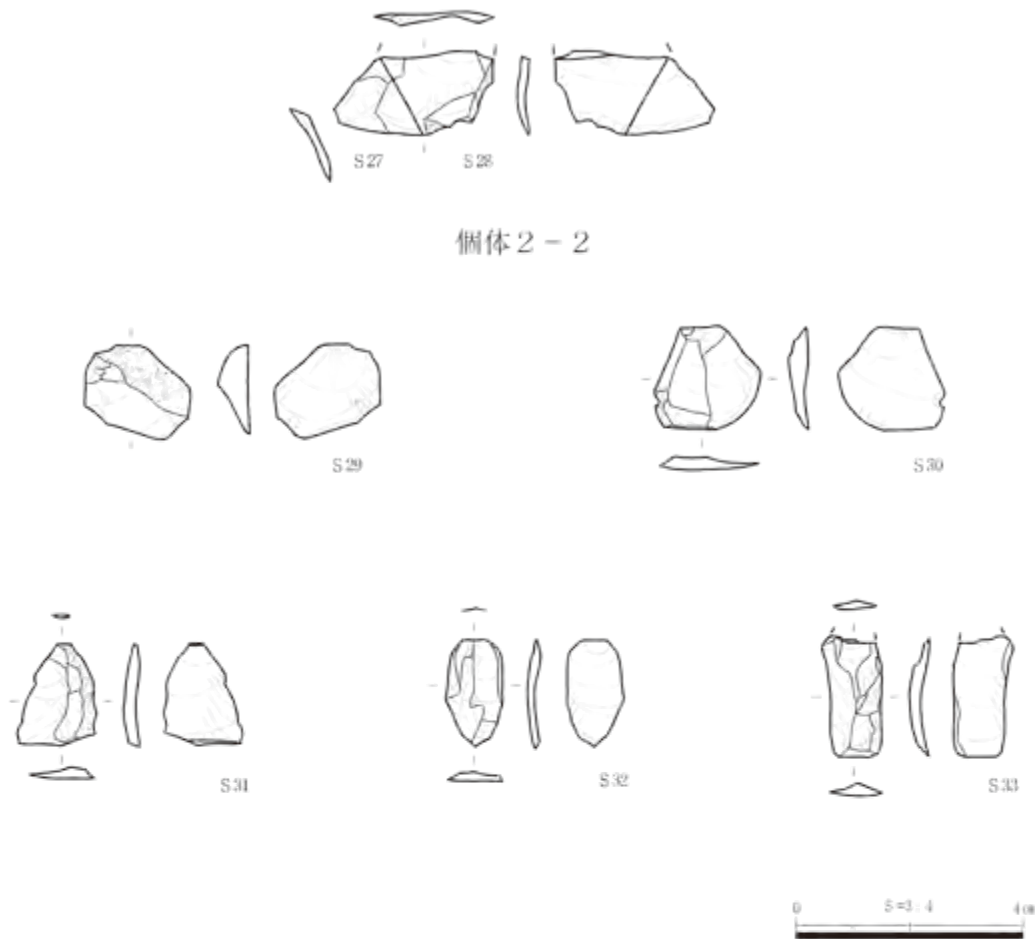
個体3-3と個体3-4は、小さな円形の剥片が接合したものの。S41では打点をもつ複数の剥離痕が側面を半周ほど囲むので、小石刃石核の打面再生剥片と考えられる。石核は円筒形または円錐形で入念な打面調整を加えるものであろう。大きさや剥離面構成などから、個体3-3は個体3-4に先立って行われた打面形成に関係するとみられる。



個体2-1

個体2-1 複合関係

第17図 母岩2(1)



第18図 母岩2(2)

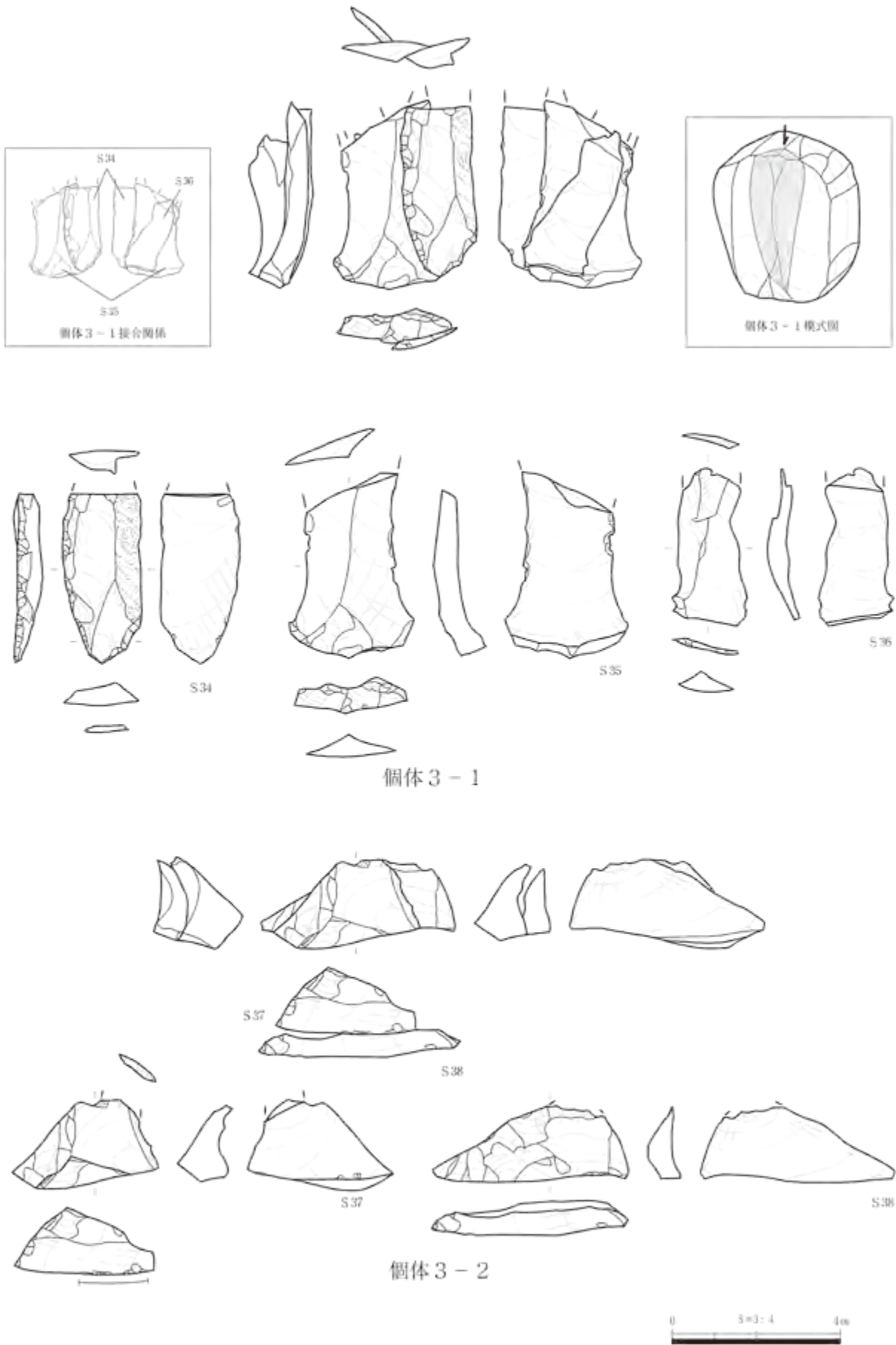
個体3-5は石器と刃部の二次加工片が接合したもの。S44は、角錐状石器や船底形石器という名称も与えるが、厚形削器に分類した。縦長の厚い剥片を素材に、主に周辺加工で片方の側縁と両端を整形する。一部裏側への調整も見られるが、不規則部分の除去や表側の二次加工のために打面を作出したものであり、両面調整の意図は認められない。

S45～S52は非接合資料。S45は周辺加工尖頭器で、二次加工はS34と同様に角度が浅い。素材は石刃であるが、右側の剥離面は稜線上を打点とする横長面なので、縁付きの石刃石核から取られている可能性がある。S46は寸詰まりの小石刃。後述する個体4-1の最終の小石刃に大きさと形態がよく似ている。S47とS48は個体3-3に先立つ打面形成剥片であろう。

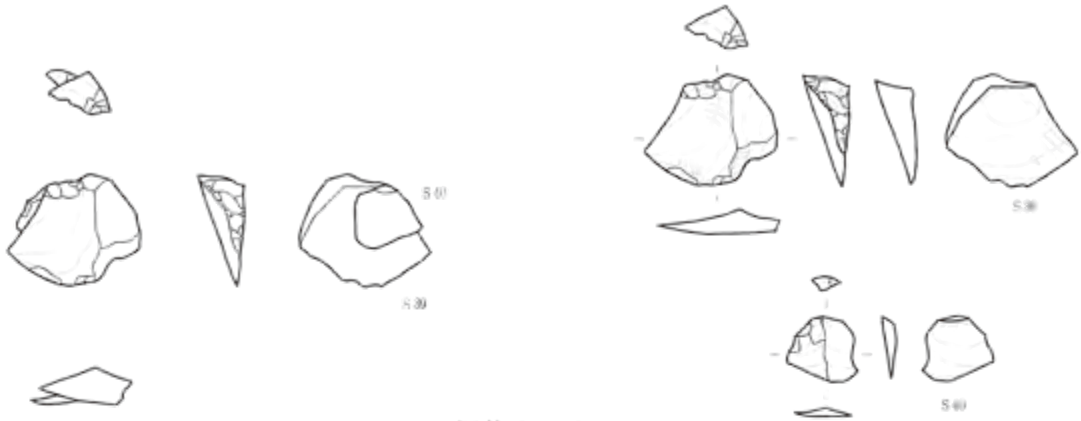
母岩4(第22・23図、PL.74)

不透明で均質な黒曜石。練羊羹のような色。ある程度の大きさの円礫であったと推定される。

個体4-1は石核と最終の目的剥片が接合したもの。板状の剥片を素材とし、4つの側面のうち直交する2組を打面と作業面に組み合わせて、小口割りで小石刃を剥ぐ。一方の打面は表面からの細かな調整で作り出し、他方は作業面側からの1打で形成している。打面に残る同心円状の打痕からみて、小石刃の剥離は明らかに打撃による。もとより生産性も生産物の大きさも期待できない材で作業をしている点は、個体1-1に共通し、寸詰まりの小石刃S53は母岩3のS46によく似ている。この種の



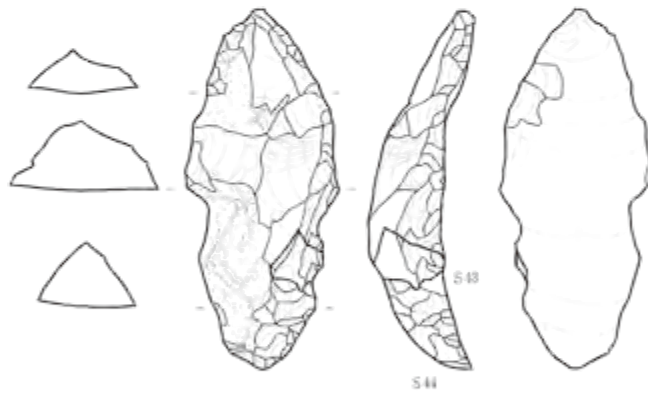
第19図 母岩3(1)



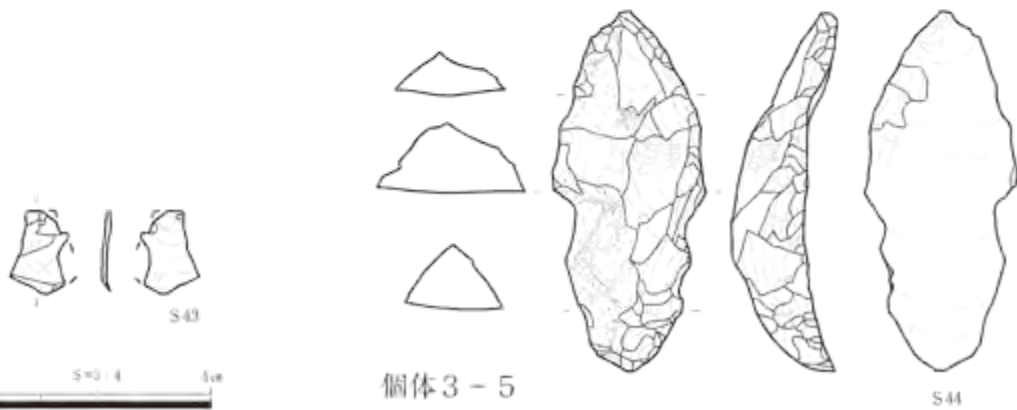
個体3-3



個体3-4



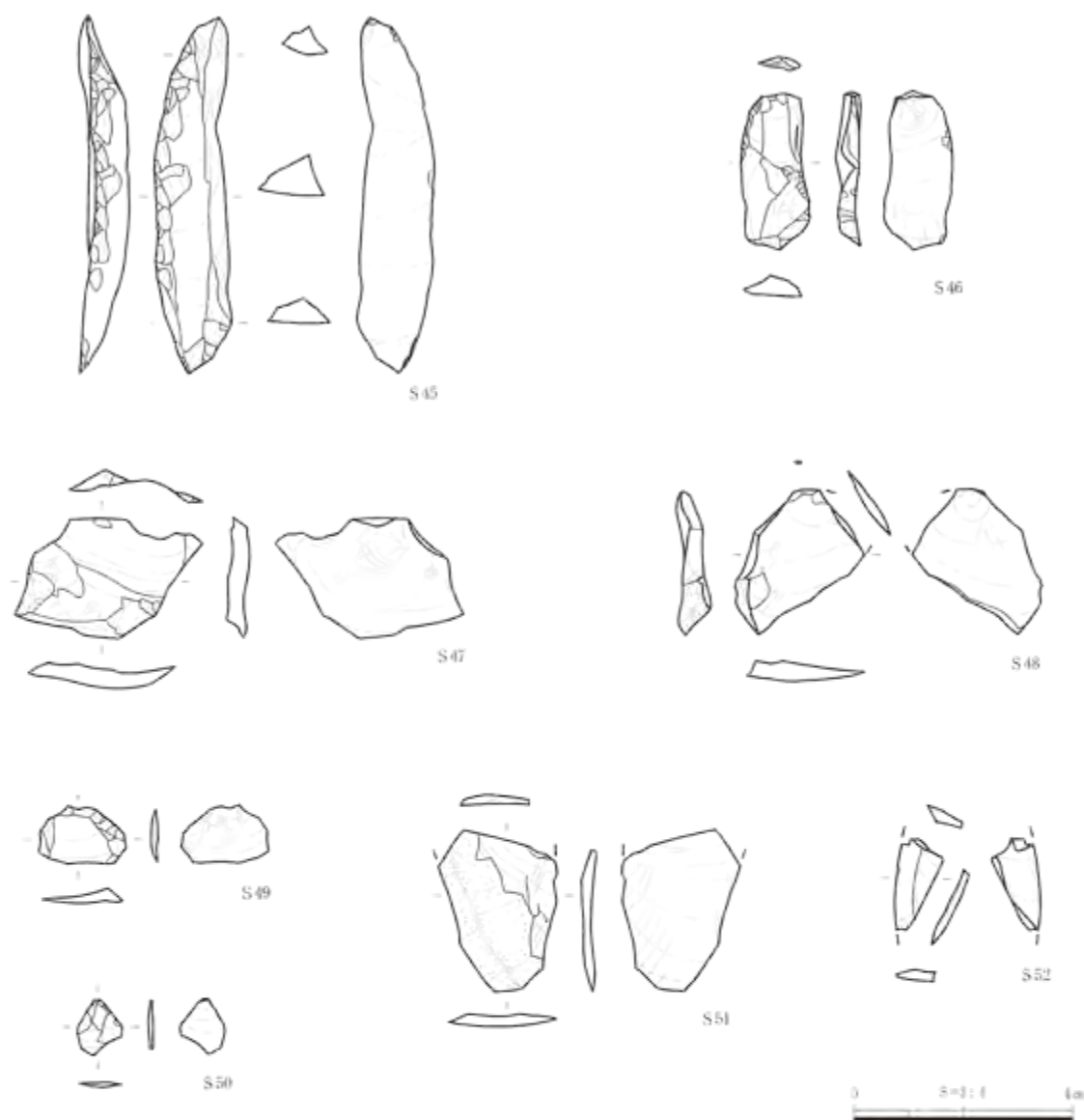
S45



個体3-5

S48

第20図 母岩3(2)



第21図 母岩3(3)

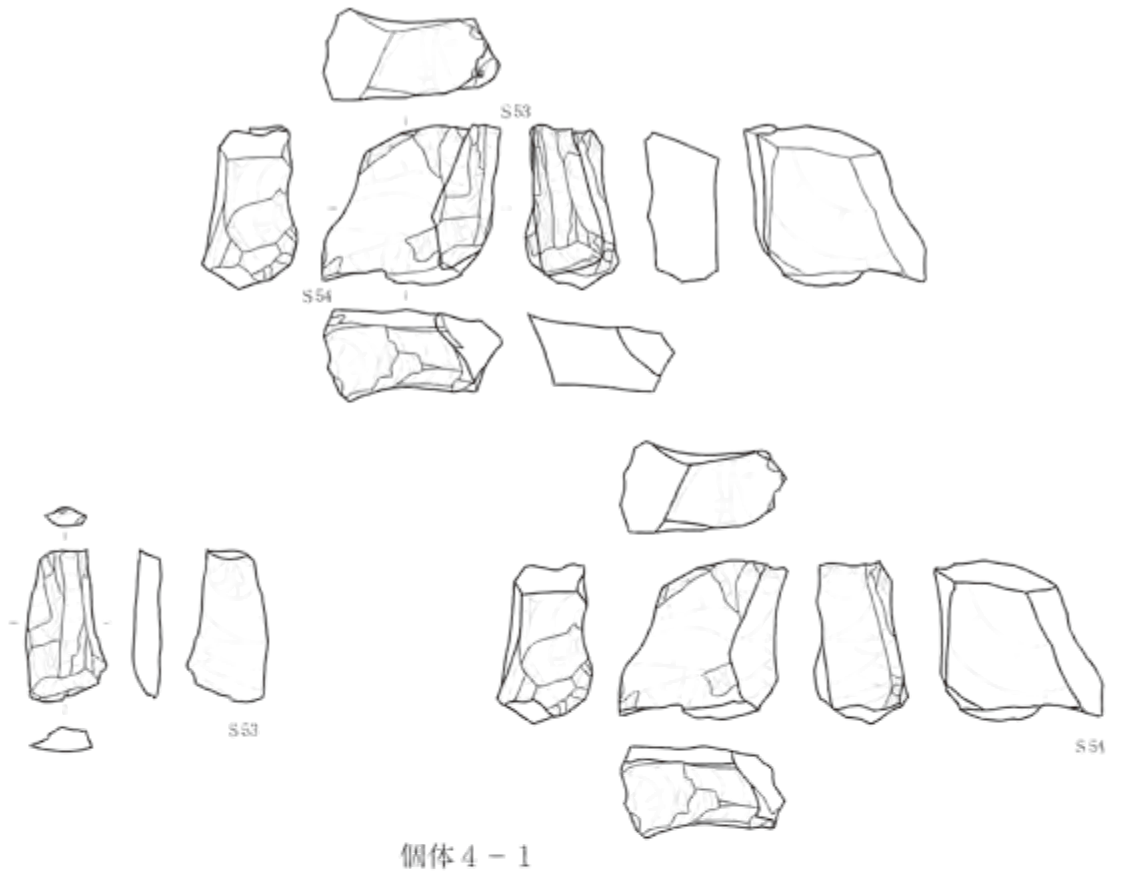
剥片を少量生産する剥離手法が、個体3-1のような石刃生産と組み合って存在している点为本石器群の大きな特徴である。

個体4-2は大型の剥片が二次加工中に折れたもの。上半は二次加工が継続される。

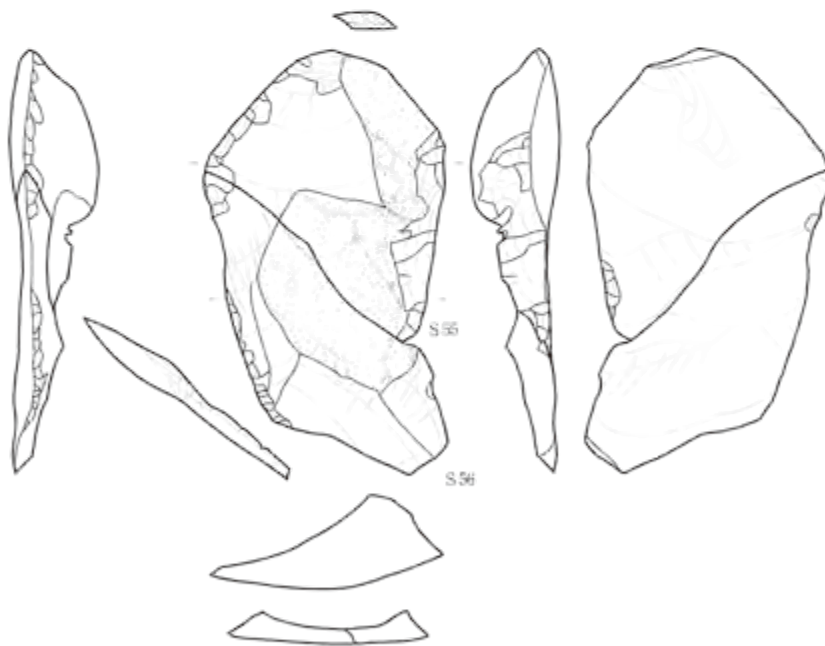
S57～S67は非接合資料。S57は縁付きの剥片で、側面から作業面への縁部の入念な調整が見られる。S58は縁付き石刃。先行する石刃剥離痕から縁部を入念に再形成する。横断面形の偏りと打面付近での捩れから考えると、縁の再生であって稜の再生ではない。この2点からも、本遺跡の石刃技術が主に縁付きの石核によっていることがわかる。S60はS54のような小口割り小石刃石核の打面再生剥片で、S61は小石刃である。母岩3同様、石刃と小石刃石核が作られている。

母岩5(第24図、PL.74)

強い光沢をもつ黒みの強い良質な黒曜石。小型の礫。



個体4-1



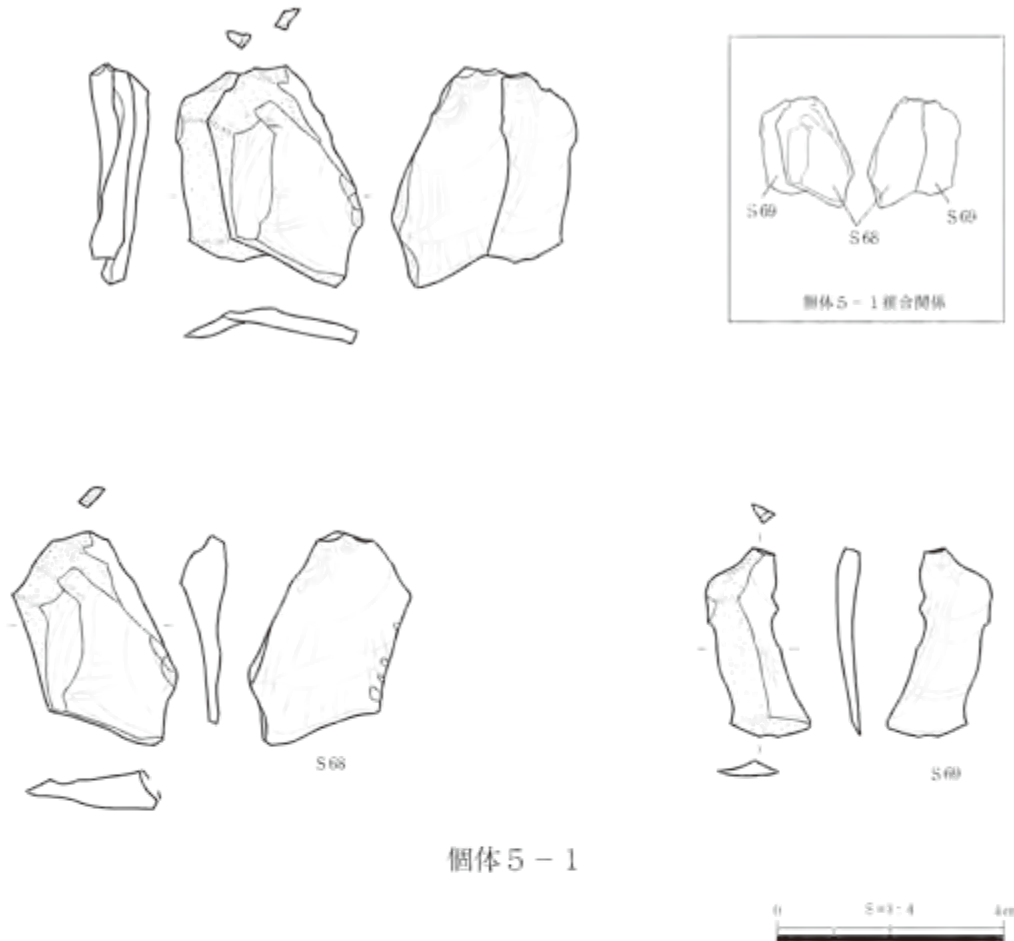
個体4-2



第22図 母岩4(1)



第23図 母岩4(2)



個体5-1

第24図 母岩5

接合する剥片2点のみが存在する。礫打面をもち、礫面が背面の多くを占めるので、石核の前形成のための礫面除去に関わるものと思われる。遺跡外で割られたものかもしれない。

母岩6 (第25図、PL.74)

褐色がかった乳白色で、擦りガラス状の黒曜石。

S70とS71は剥片。S70には連続する微細剥離が認められる。ともに不整形で、背面は複数方向の剥離面で構成され、側面観はカーブする。大型の石刃石核を前形成した際に出た剥片であろう。S72は厚みのある剥離物に部分的な調整を加えたもの。小石刃石核の素材としては小さい。

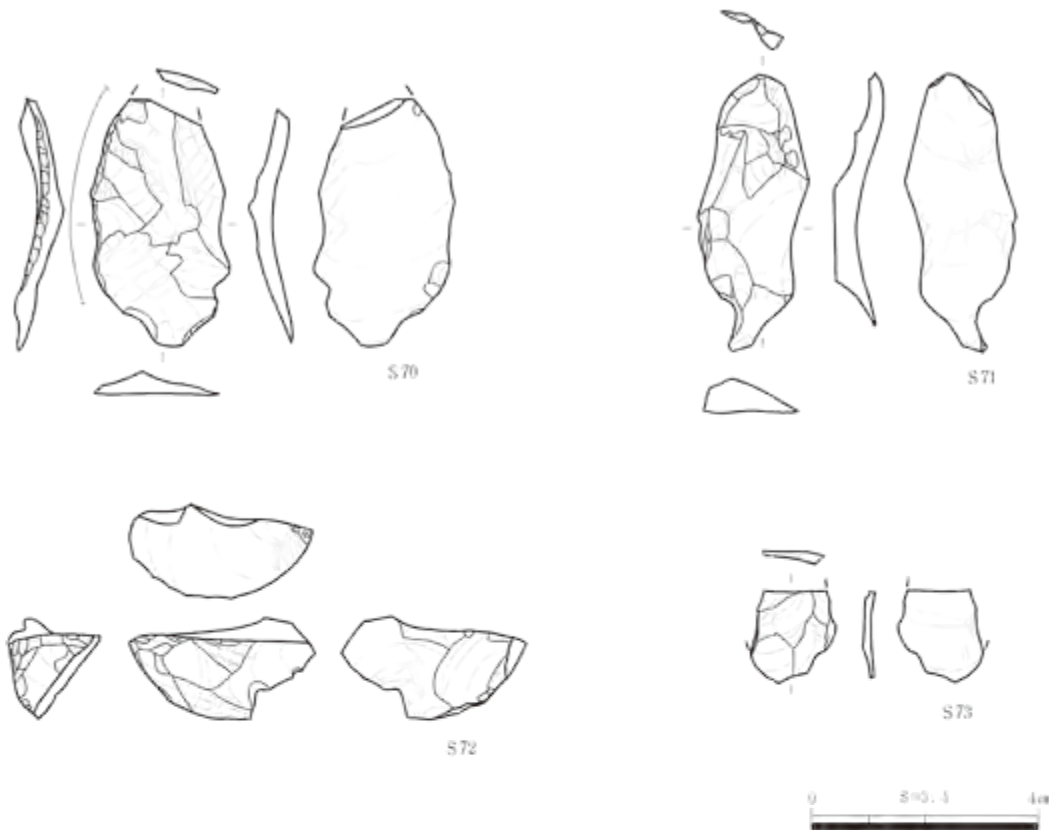
母岩7 (第26図、PL.74)

ねずみ色がかかった黒曜石で、縞模様がある。小さな挟雑物を含み、質はやや劣る。

この母岩の剥片は、いずれも小さく不定形である。S74はS72同様厚みのある剥離物で、部分的な調整が認められる。石核素材としては小さいので、別の意図によるものか。

母岩8 (第27図、PL.74)

小さな挟雑物を多く含むサヌカイト。風化はあまり進んでいない。扁平な礫で、大きさは握り拳よ



第25図 母岩6

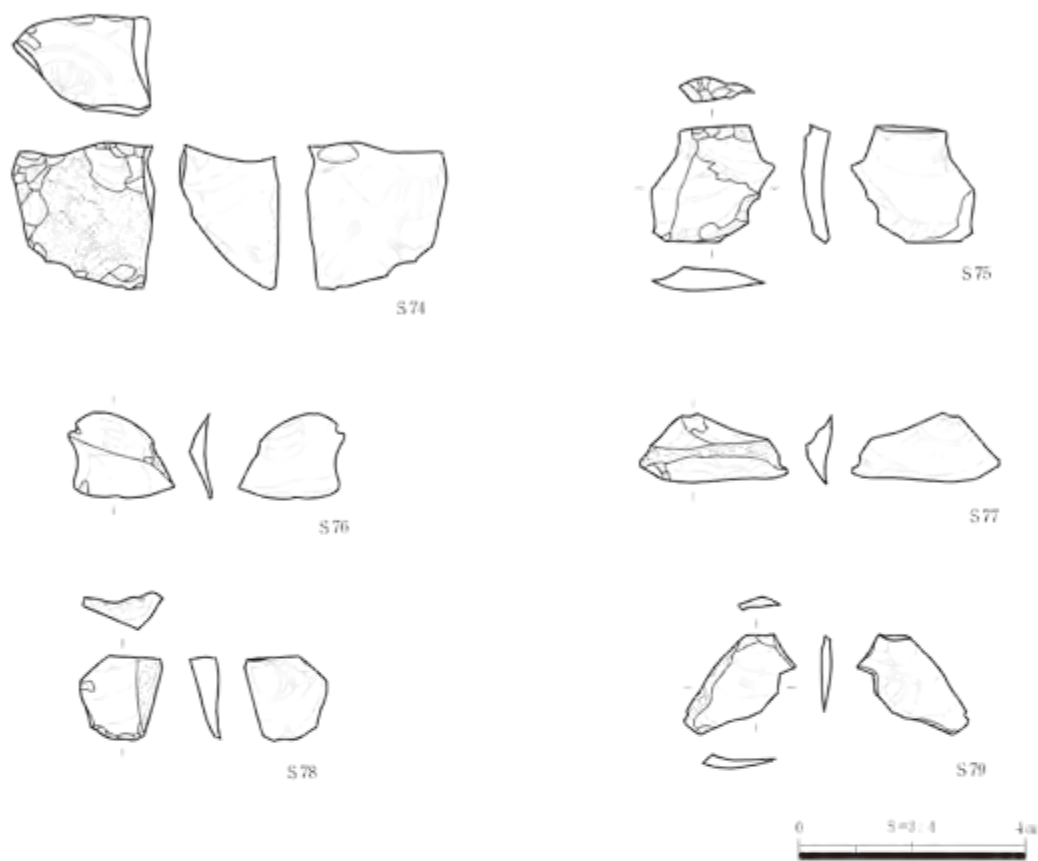
り少し大きい程度であったと推定される。

S80は礫を素材に両面から剥片を剥いている際に折れた折れ片。S81～S83は剥片で、いずれもS80には対応する剝離面がない。S80が取れた本体から取られたものと思われる。中でもS82は整った形態をしているので、本体は石核として持ち出されていると推定される。本石器群を遺した人々が、瀬戸内地域とも何らかの関係をもった証拠である。

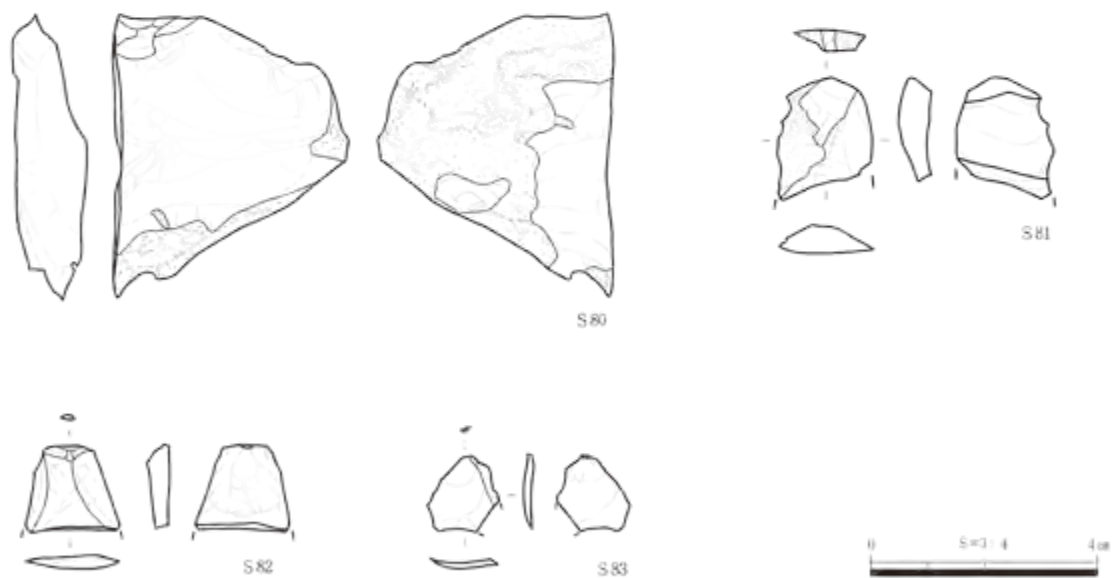
非識別資料(第28図、PL.75)

S84は黒曜石製の搔器である。背面がほぼ礫面で構成される剥片を素材に、末端側3分の2に、時に中央にまで達する調整を加えて角度の大きな刃部を作り出す。打面側3分の1に刃が付けられないのは、丁度この部分で素材の礫面に窪みがあって薄く、着柄に都合がよいからであろう。したがって厳密には円形搔器ではない。素材の打縮裂痕の大きさからみて、折れていないものなら相当大きな剥片を用いていることがわかる。もともとは長大な搔器であったものが、再刃付けを繰り返した結果円形になったとすれば、かなり長い時間使用されたものになる。本遺跡に遺されていたのは、再刃付けがこれ以上できず形態的に限界に達したからではないか。着柄状態で再刃付けが行われたとすれば、打面側3分の1に調整が見られないことの説明がつかかもしれない。

S85は珪岩製の彫器である。断面が三角形となる厚い剥片を素材とする。まず素材の打面を細かな調整で切り取った上で、彫刀面打撃を加える。2度の再生が認められるので、この部分が主に機能したと考えられる。次に、素材の末端側を背面側から折り取った上で、両端に彫刀面を設ける。右側の



第26図 母岩7



第27図 母岩8



第28図 非識別資料

第3章 調査成果

先行する彫刀面の側は良好な面ができるが、もう一方はチップングして彫刀面が形成できていない。素材に対する彫刀面の角度はほぼ90度である。表面にハジケが認められるので火を受けていると推定される。彫器としては一般的な型式であるが、西日本では出土することが珍しい。

S86は大型で幅広の玉髓製剥片で、側縁と末端に微細剥離が認められる。背面の剥離面構成は単方向で、縦横それぞれの断面における曲率は弱い。一見ルヴァロワ剥片を連想させる資料である。実際には、横断面での稜線の角度の開きが大きいためこのような形態の剥片が取れたと思われる。その背景に、個体3-1で見たような石刃剥離技術があることは容易に想像できる場所であり、玉髓を材としても、幅広の石刃を素材とする周辺加工尖頭器が作られている可能性が示唆される。

S87は黒曜石製の剥片で、打撃角か力加減に問題があったため剥離が行過ぎて石核底面を分厚く取り込んでしまったもの。しかしそのおかげで石核の状況を知ることができる。側面や裏面にも細長い剥離面があるが、どれも礫面や別方向の面に接しているので、石刃の剥離には使われていないだろう。つまり作業面は表側1面であり、比較的平坦である。作業面中央に残る剥離痕が成功した剥片のもので、それは、やや幅広で薄く先が尖った石刃で、周辺加工尖頭器の素材として最良のものである。

S88は黒曜石の小石刃石核で、一方の小口から小石刃を取る。一見両極石核のようであるが、打面は作業面側からの複数の打撃で形成されている。他の小型の石核同様、生産性は低い。

本石器群において、細石刃に分類できる資料はS89～S91の3点しか存在しない。その他の剥片や石核も含めて、押圧の特徴を示すものは皆無である。

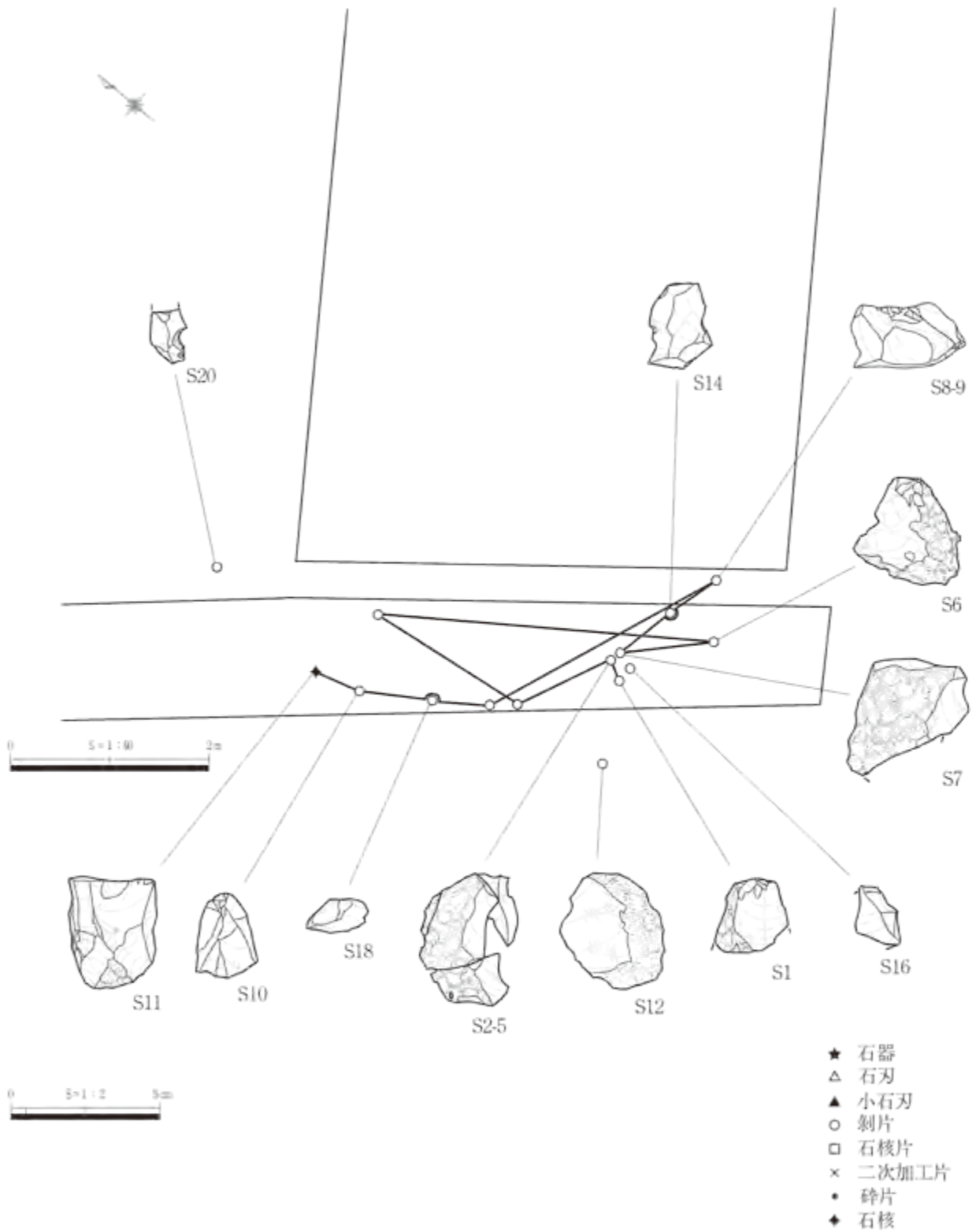
S92は黒曜石製の二次加工のある剥片。ブランチング様の加工が一部にある。S93は黒曜石製の剥片。これらは他の遺物に比較して風化が進んでいない。

5 遺跡の構造

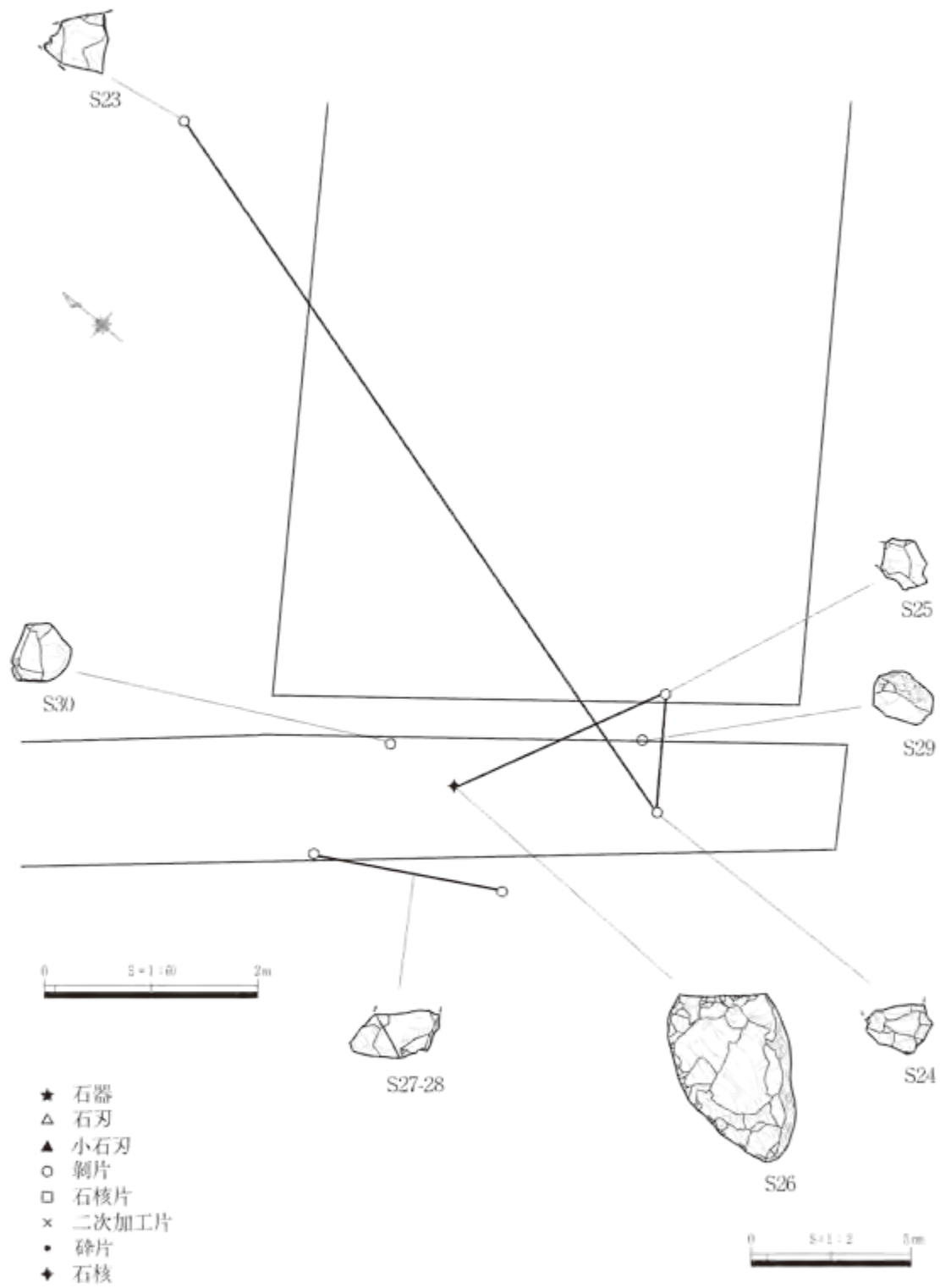
第29～32図に、母岩別の分布図を示す。主に剥離作業が行われた母岩1～4については、C字状の分布の中心に多くが集まる。その多くが剥離物で構成されることから、この部分は剥片剥離作業の場か廃物を棄てる場所であったと考えられる。

第33図に石器と石核の分布を示す。残念ながら彫器は出土位置の情報を欠く。石器は分布の端部に集中し、尖頭器のうち1点は外縁に位置する。石核は剥離物の分布範囲の端にまとまっている。注目すべきは搔器や二次加工ある剥片といった加工具が、空白部に接した位置にあることである。空白部はこれらの道具を使用する場であった可能性がある。

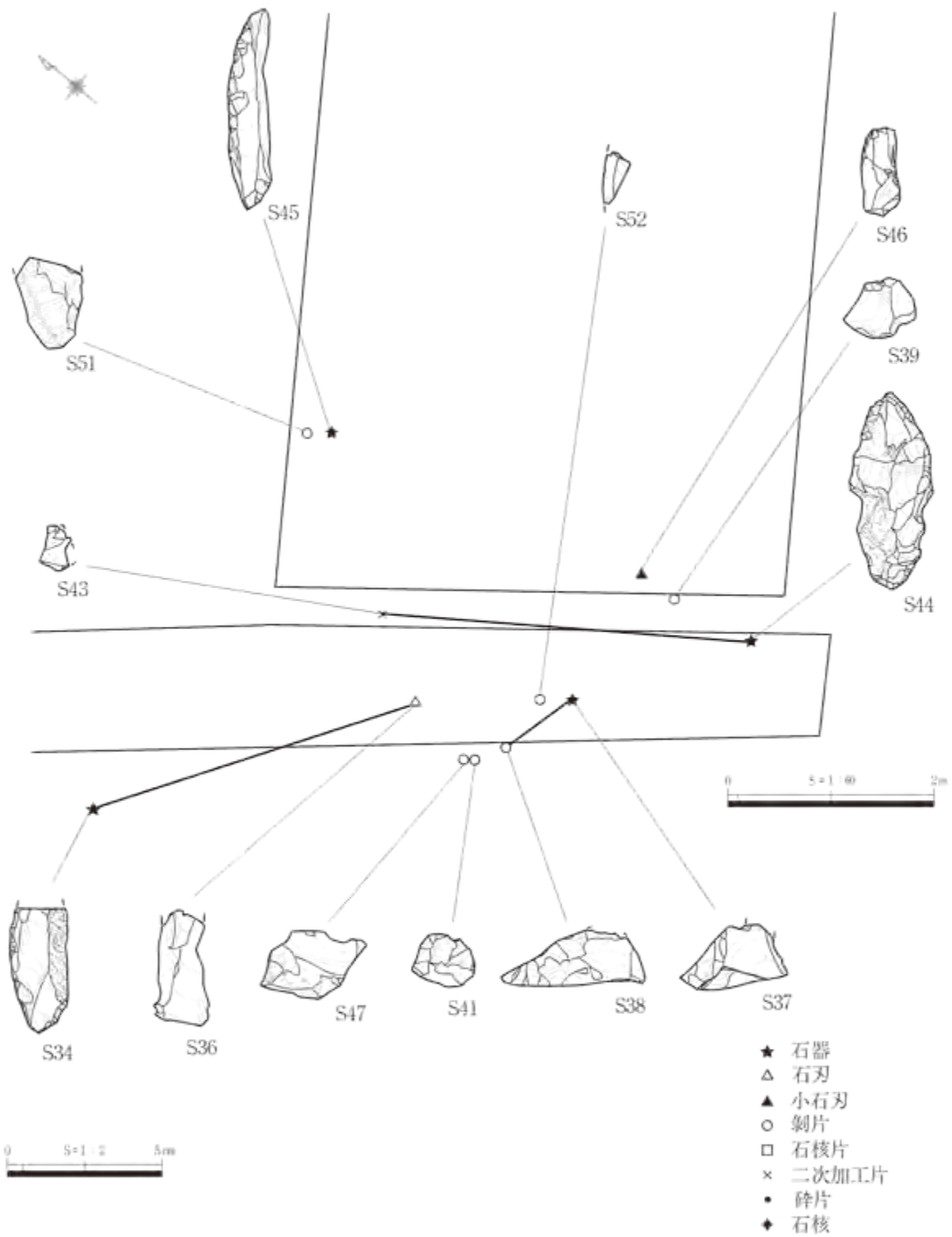
径約3mという空白部の大きさとそれを取り囲むかのような遺物の分布は、テントの存在を想定するのにふさわしい状況である(第34図)。これが正しければ、入り口は東側に開いていたことになろう。東側は谷側に向き、平坦面もまだ残っている。問題は、遺物の分布をテントの内側に含めるか外側に出すかである。内側に小さなテントを復元すれば、道具もみな外側にあることになる。大きなテントの場合は、直径約5.3mになる。整った内外の円弧は、テントの端に廃物や道具が寄せて片付けられたという説明を可能にする。剥離作業の廃物は、入り口のちょうど反対側に集まる。大きなテントなら奥側に寄せたことになり、小さなテントなら裏口があって排出したことになろう。また、大きなテントの場合は、石器と石核の分布の間に第2の入口が想定できる。もちろん、以上の説明は遺物の分布に基づく解釈であり、テントの存在を明示する遺構があるわけではない。さらに、地形の傾斜が小さくないことも否定的な材料である。それでも、この特異な分布状況には、テントを想像させるだけ



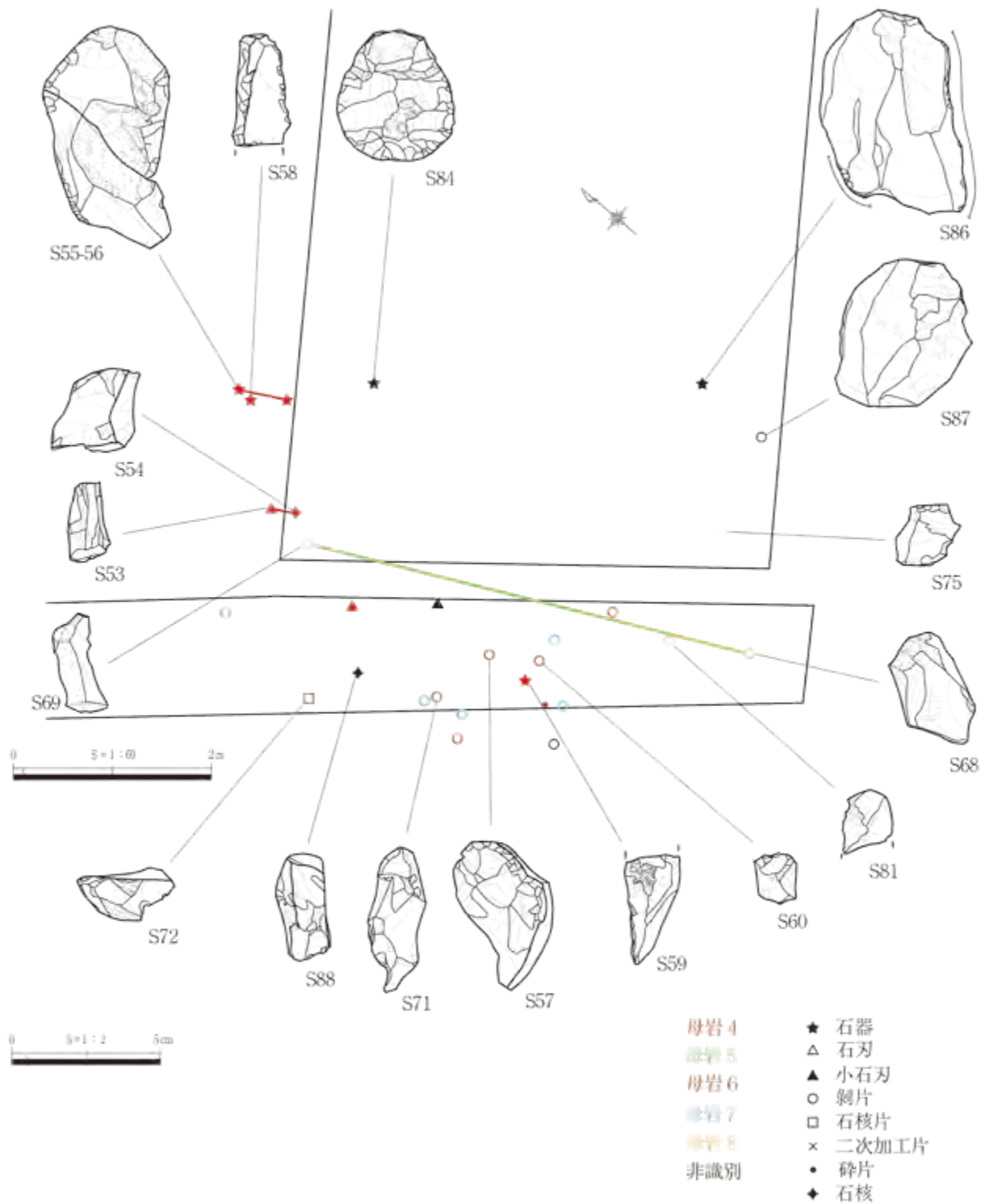
第29図 母岩1分布図



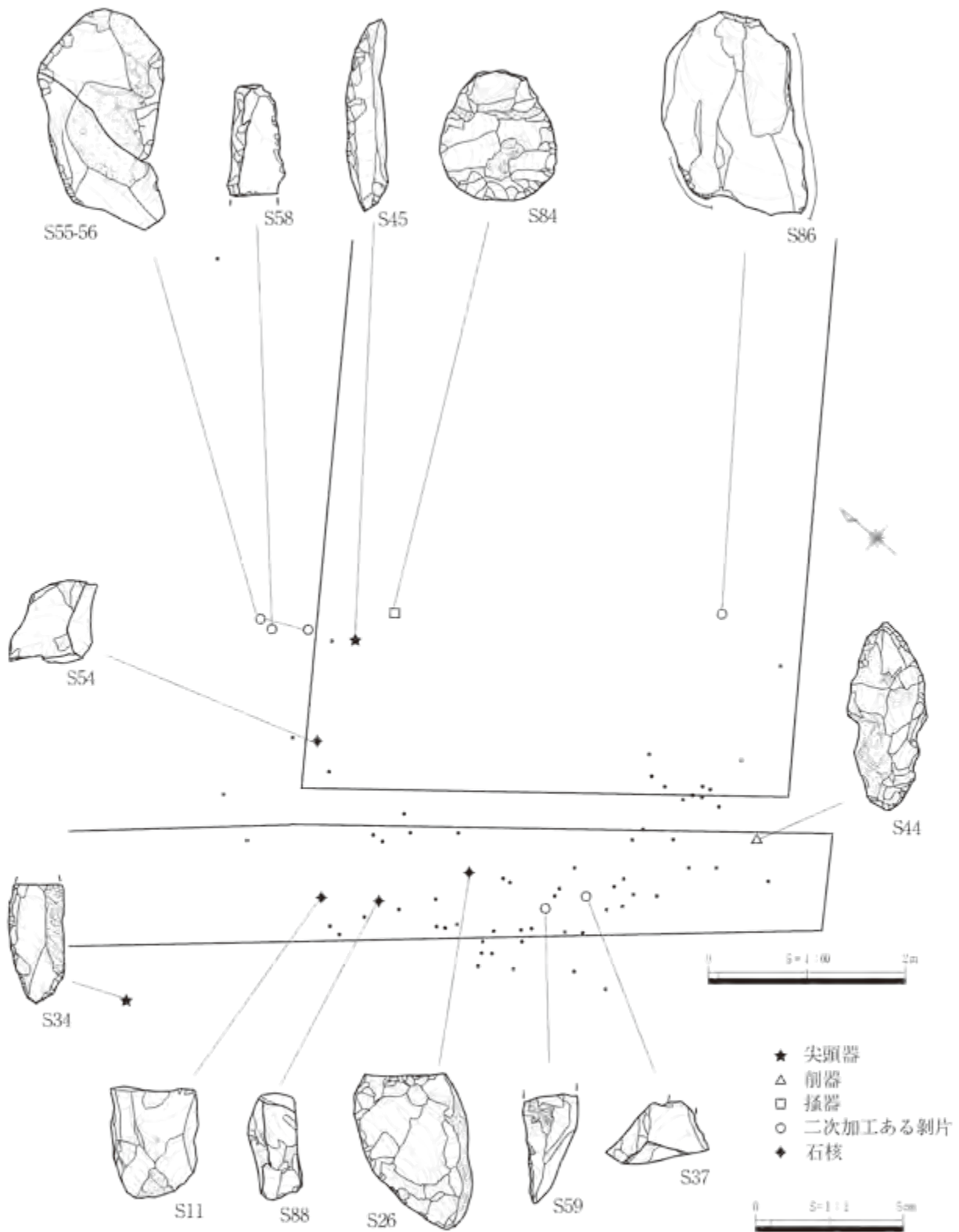
第30図 母岩2分布図



第31図 母岩3分布図



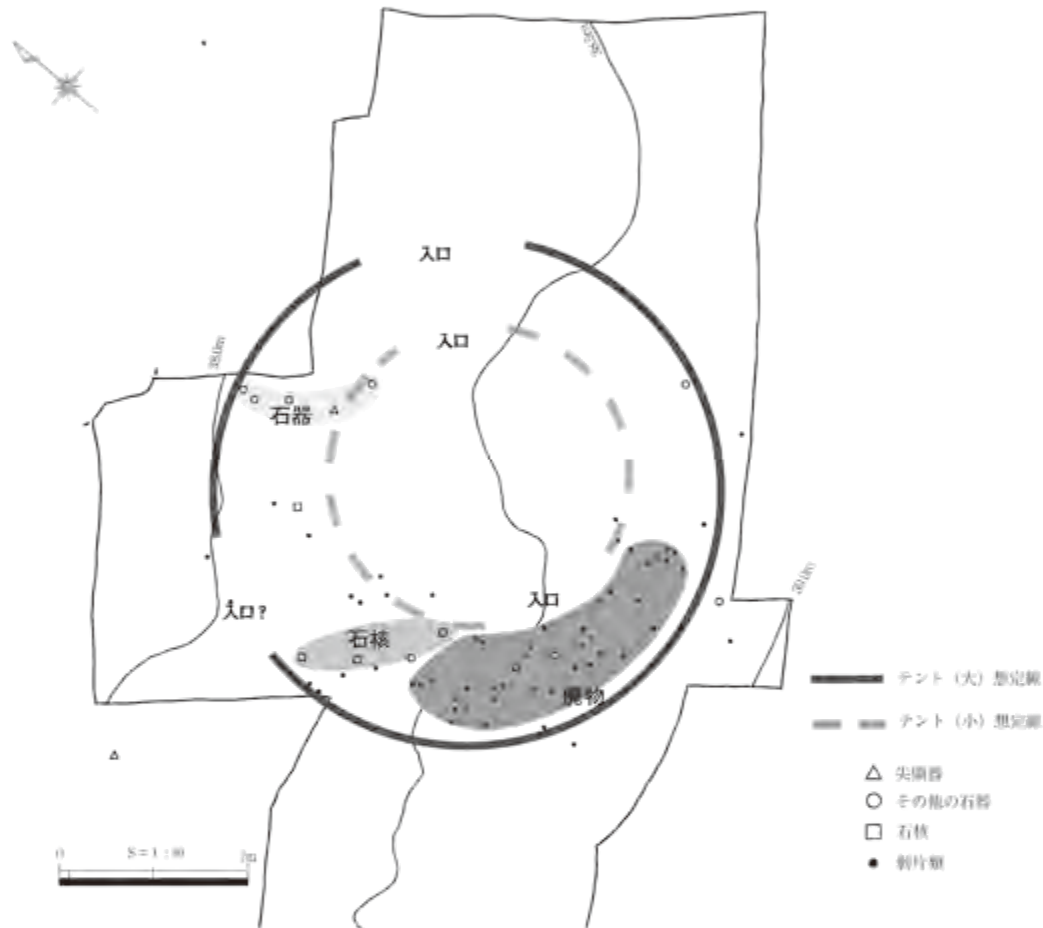
第32図 その他の母岩分布図



第33図 石器及び石核分布図

の魅力が十分にある。

遺跡の立地もまた興味深い。大山北麓の平坦な丘陵が見渡す限り広がっているにもかかわらず、急な谷の斜面中の、テントを一張建てるのが精一杯の狭い平坦地に活動の場が求められている。その理由に、すぐ下を流れる水量が豊富な小川を挙げることは困難ではない。遺物量の少なさと作業内容から考えると、この遺跡での活動は短期間と考えられる。そのために居住性よりは川にごく近い立地が好まれたのではないか。裏を返せば、常識的に旧石器時代の遺跡が立地するとされる丘陵上や台地上でなくても、さまざまな地形の中に小規模な遺跡が遺されている可能性があることになる。



第34図 旧石器分布の構造

6 まとめ

本石器群も、当地域の旧石器時代遺跡の例にもれず、小規模でスポット的である。しかし、遺跡を遺した集団の装備一式を、雑音を含まない形で知ることができるという点ではむしろ好都合である(第35図)。

石器の装備は3種類で構成されている。1つ目は狩猟具と考えられるもので、数本の周辺加工尖頭器である。同じ母岩を材として少なくとも2本が製作されていることから、滞在地ごとに取替えを繰り返すような、寿命の短い石器であると考えられる。2つ目は加工具で、主なものには、1本ずつの搔器と彫器がある。どちらも、再刃付けを繰り返しながら、完成された石器として持ち運ばれた寿命の長い石器である。玉髓などの大型剥片も同じような扱いを受けたと思われる。3つ目は小石刃である。使用方法ははっきりしないが、そのための石核が複数作られていることから、主要な道具であっ

たことは明らかである。必要に応じて新鮮な刃を手に入れる、多用途で便宜的なものであろうか。

石核の装備については、2種類が用意される。1つ目は石刃石核である。縁付きで主に1面を作業するルヴァロワ的なもので、周辺加工尖頭器の素材となる幅広く薄い石刃を取ることを目的としている。この集団には1～2個しかなく、使い切らずに次の滞在地に持って行くことから、集団または熟練者に属する管理的な装備と考えられる。2つ目は小石刃石核で、小型の礫から作り、小口方向から小石刃を取る生産性の低いものが中心である。その一方で舐先形の見事な母型や、円筒形か円錐形石核の打面再生剥片も出土しており、生産性の高いものもある。複数存在し基本的に割り切られていることから、個人に属する便宜的な装備と推定される。

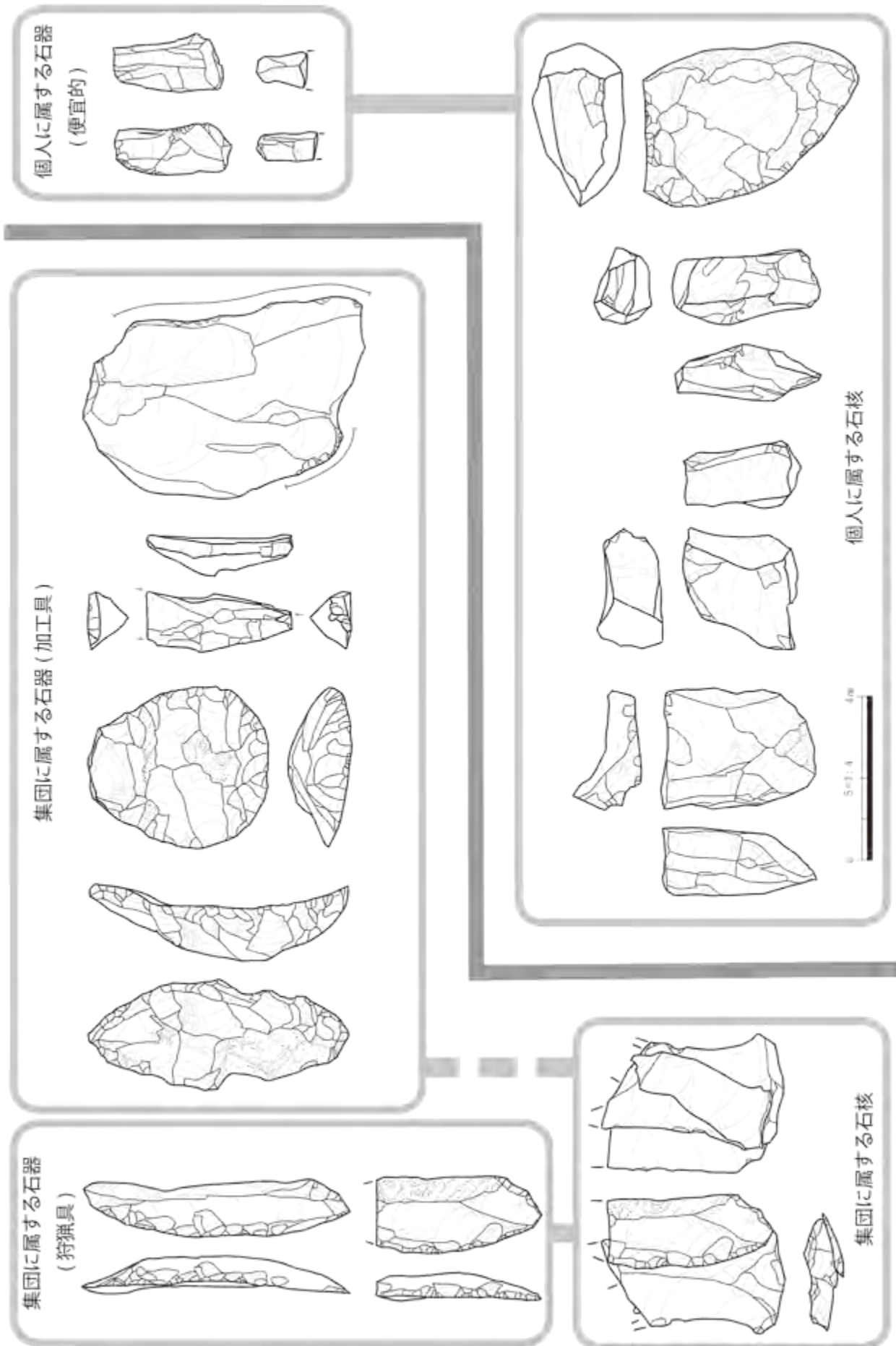
本石器群を遺した集団の装備は、石器に関しては寿命の異なるものを組み合わせ、石核に関しても目的に応じて異なる手法のものを組み合わせる。その製作と管理についても、集団と個人の階層が存在した可能性があり、石器群の構造や集団の性格を考える上で興味深い。特に、剥片剥離技術に関して、このように明らかな二極構造をもつ石器群は、周辺地域も含めて類例に乏しい。

本石器群において、石材原産地から離れた当地域としては例外的に、比較的大型の石器を基本とする点は、外来的な要素である可能性がある。主に大型の石器を製作するためにさまざまな石材を利用し、それゆえ他地域とも関わりをもったと考えられる点も、当地域では異質なものである。

石器群の年代に関しては、もはやナイフ形石器の製作は行わないものの、尖頭器の形態や石刃の剥離技術にナイフ形石器文化の影響を強く残す点と、彫器など古い型式の石器を組成する点から、ナイフ形石器の消滅直後の石器群である可能性が高い。その一方で、小石刃の生産が同時に行われる点は、後続する石器群につながる要素として注目される。例としては、下甲退休原第1遺跡上層石器群のような、折り取った小石刃のみで組成される石器群を挙げることができる。周辺地域で比較対象となるのは、鳥根県奥出雲町原田遺跡Ⅳ層石器群で、小型の切出形ナイフ形石器を含むことから、ナイフ形石器文化の消滅直前の石器と推定されている。本石器群よりも古いことになるが、削器類などに両面調整が顕著に認められる点では、両面調整を全く行わない本石器群よりも新しい要素を含むという評価もできる。この時期の山陰地方では、外来的な要素も含みながら、複雑で多様な石器文化が展開されている可能性が、本遺跡の調査成果から指摘できる。

【引用・参考文献】

鳥根県教育庁埋蔵文化財調査センター 2008『原田遺跡(4)』尾原ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書12
鳥根県埋蔵文化財センター 2014『下甲退休原第1遺跡』鳥根県埋蔵文化財センター調査報告書56



第35図 石器群の構成

表3 殿河内ウルミ谷遺跡出土旧石器一覧表(1)

掲載番号	地区	層位	遺物番号	挿図番号	PL番号	母岩	個体番号	接合番号	型式	部位	長mm	幅mm	厚mm	重量g	x座標	y座標	z座標	備考
S1	F4tr	4層	1530	14	71	1	1	1	剥片	a	24.5	24.7	6.4	3.26	-5493.981	-7014.475	38.641	
S2	f-1	暗褐色ホーキ混土	1782	14	71	1	1	2	剥片	l	29.4	29.0	11.6	6.79			38.393	
S3	F4	黄褐色土	1588	14	71	1	1	3	剥片	d	17.0	25.6	5.7	1.67				
S4	F4tr	4層	1484	14	71	1	1	4	剥片	f	23.6	16.5	5.4	1.20	-5493.785	-7014.351	38.762	
S5	北tr	4層	1823	14	71	1	1	5	剥片	f	24.0	14.4	3.5	0.82				
S6	F4tr	4層	1504	14	71	1	1	6	剥片	a	36.2	35.8	7.5	7.60	-5494.455	-7013.541	38.864	
S7	F4tr	4層	1483	14	71	1	1	7	剥片	pm	41.1	39.8	9.2	13.53	-5493.805	-7014.229	38.788	
S8	f-4	4層	1764	15	71	1	1	8	剥片	lm	20.8	34.9	5.6	3.53	-5493.852	-7013.092	39.045	
S9	F4tr	4層	1491	15	71	1	1	9	剥片	r	18.2	17.4	6.6	0.81	-5493.136	-7015.498	38.637	
S10	F4tr	4層	1496	15	71	1	1	10	剥片	a	28.0	20.7	4.8	1.96	-5492.060	-7016.214	38.357	
S11	F4tr	4層	1461	15	71	1	1	11	石核	a	38.1	30.7	17.0	18.39	-5491.600	-7016.363	38.233	
S12	g-4	暗褐色ホーキ混土	1781	16	71	1			剥片	a	39.3	34.7	11.2	12.14			38.720	
S13	e-0	4層	1806	16	71	1			剥片	a	19.5	20.1	4.3	1.44				
S14	F4tr	4層	1481	16	71	1			剥片	a	28.8	21.9	4.0	2.22	-5493.933	-7013.608	38.953	
S15	f-0	4層	1807	16	71	1			剥片	md	23.5	23.4	3.3	1.19				
S16	F4tr	4層	1482	16	71	1			剥片	r	20.4	15.1	2.4	0.62	-5493.965	-7014.294	38.777	
S17	e-1	4層	1817	16	71	1			小石刃	pm	14.8	6.7	1.5	0.20				
S18	F4tr	4層	1459	16	71	1			剥片	a	11.7	20.9	3.8	0.71	-5492.672	-7015.819	38.516	
S19	f-0	4層	1808	16	71	1			剥片	l	17.3	11.0	1.6	0.28				
S20	f-0	4層	1792	16	71	1			剥片	md	18.1	12.7	2.5	0.58	-5490.141	-7016.020	38.083	
S21	グリッド1	4層	1822	16	71	1			剥片	a	15.2	12.1	3.8	0.52				
S22	f-3	4層	1811	16	71	1			剥片	a	8.4	16.5	2.0	0.17				
S23	E4	灰褐色土	1795	17	72	2	1	1	剥片	f	19.0	20.2	3.9	1.22	-5486.596	-7012.090	38.272	
S24	F4tr	4層	1502	17	72	2	1	2	剥片	d	15.6	20.6	4.3	1.15	-5494.179	-7014.148	38.748	
S25	f-4	灰褐色ホーキ混土	1695	17	72	2	1	3	剥片	mr	15.5	14.1	2.3	0.40	-5493.543	-7013.267	38.960	
S26	F4tr	4層	1458	17	72	2	1	4	石核母型	a	52.3	39.7	21.7	41.34	-5492.578	-7015.200	38.669	
S27	F4tr	4層	1495	18	72	2	2	1	剥片	d	14.6	19.8	2.7	0.70	-5491.979	-7016.558	38.341	
S28	g-3	暗褐色ホーキ混土	1777	18	72	2	2	2	剥片	f	13.1	16.3	2.4	0.39			38.612	
S29	f-4	4層	1760	18	72	2			剥片	a	16.6	19.1	5.3	1.32	-5493.633	-7013.733	38.970	
S30	f-1	4層	1757	18	72	2			剥片	a	18.0	18.6	2.8	0.96	-5491.854	-7015.272	38.565	
S31	F4tr	4層	1487	18	72	2			剥片	a	17.6	14.2	2.8	0.58	-5492.901	-7015.019	38.670	
S32	f-3	4層	1811	18	72	2			剥片	a	18.8	10.0	2.0	0.40				
S33	g-1	4層	1813	18	72	2			剥片	md	20.9	11.1	2.6	0.60				
	f-4	4層	1812			2			碎片	a	10.9	11.2	2.9	0.21				
S34	F4	4層	1438	19	72	3	1	1	尖頭器	mb	40.2	18.9	6.3	4.82	-5490.772	-7018.426	37.945	
S35	e-0	4層	1798	19	72	3	1	2	石刃	md	43.5	28.8	6.3	6.90				
S36	F4tr	4層	1492	19	72	3	1	3	石刃	md	36.5	19.4	4.8	2.06	-5494.464	-7015.638	38.484	
S37	F4tr	4層	1486	19	72	3	2	1	剥片(二次)	md	19.1	33.6	13.1	5.93	-5493.627	-7014.606	38.690	
S38	g-3	暗褐色ホーキ混土	1776	19	72	3	2	2	剥片	md	17.4	47.0	6.8	4.57			38.606	
S39	f-4	4層	1762	20	72	3	3	1	剥片	a	20.5	21.1	7.3	1.81	-5493.739	-7013.209	39.015	
S40	g-2	4層	1814	20	72	3	3	2	剥片	a	11.7	11.7	2.6	0.23				
S41	g-3	暗褐色ホーキ混土	1768	20	72	3	4	1	剥片	a	17.4	20.5	3.5	0.96	-5493.242	-7015.686	38.634	
S42	g-2	4層	1814	20	72	3	4	2	剥片	a	13.9	14.4	1.7	0.35				
S43	f-1	4層	1758	20	72	3	5	1	二次加工片	pm	14.4	9.5	1.0	0.11	-5491.681	-7015.170	38.555	
S44	F4tr	灰褐色ホーキ混土	1559	20	72	3	5	2	厚形削器	a	63.0	26.8	13.4	18.42			39.054	
S45	e-1	灰褐色ホーキ混土	1694	21	72	3			尖頭器	a	64.6	13.6	7.9	6.00	-5490.156	-7014.167	38.325	
S46	f-4	黄褐色ホーキ混土	1701	21	72	3			小石刃	a	28.5	12.1	4.1	1.33	-5493.347	-7013.265	38.934	
S47	g-2	4層	1787	21	72	3			剥片	a	22.1	36.3	4.8	2.85	-5493.184	-7015.736	38.610	
S48	g-1	4層	1813	21	72	3			剥片	lm	26.0	23.7	5.3	1.73				
S49	e-0	4層	1806	21	72	3			剥片	a	10.3	15.3	2.2	0.28				
S50	グリッド1	4層	1822	21	72	3			剥片	a	9.1	8.5	0.8	0.06				
S51	e-1	灰褐色ホーキ混土	1693	21	72	3			剥片	md	28.0	23.4	2.0	1.30	-5489.994	-7014.323	38.388	
S52	F4tr	4層	1499	21	72	3			剥片	f	16.5	8.4	2.3	0.24	-5493.352	-7014.757	38.582	
	f-3	4層	1811			3			碎片	a	9.9	6.7	1.8	0.08				
	e-1	4層	1817			3			小石刃	d	11.7	8.5	2.3	0.26				
	g-5	4層	1821			3			剥片	d	10.5	12.9	2.6	0.23				
S53	f-0	4層	1789	22	74	4	1	1	小石刃	a	26.7	13.9	5.3	2.05	-5490.321	-7015.327	38.282	
S54	f-1	黄褐色ホーキ混土	1699	22	74	4	1	2	石核	a	29.0	31.9	13.8	12.79	-5490.843	-7015.332	38.309	
S55	e-0	4層	1794	22	74	4	2	1	剥片(二次)	pm	47.1	42.9	14.5	18.06	-5489.289	-7014.631	38.143	
S56	e-0	4層	1790	22	74	4	2	2	剥片(二次)	d	50.9	51.4	6.5	7.44	-5489.702	-7014.380	38.321	
S57	F4tr	4層	1488	23	74	4			剥片	a	48.6	36.3	7.9	9.37	-5492.927	-7015.080	38.614	
S58	e-0	4層	1791	23	74	4			剥片(二次)	pm	36.8	19.6	9.3	5.68	-5489.441	-7014.620	38.222	
S59	F4tr	4層	1498	23	74	4			剥片(二次)	md	36.7	20.0	7.7	3.22	-5493.393	-7014.990	38.587	
S60	F4tr	4層	1500	23	74	4			剥片	a	17.4	14.1	6.2	1.45	-5493.347	-7014.756	38.591	
S61	f-1	4層	1755	23	74	4			小石刃	pm	12.2	8.4	2.4	0.25	-5491.572	-7015.540	38.506	
S62	g-1	4層	1813	23	74	4			剥片	a	18.9	27.9	6.6	3.02				
S63	F4tr	灰褐色土	1560	23	74	4			剥片	md	15.0	23.4	5.7	1.46			38.788	
S64	g-2	暗褐色ホーキ混土	1775	23	74	4			剥片	l	24.2	13.8	5.4	1.68			38.629	
S65	g-3	暗褐色ホーキ混土	1778	23	74	4			碎片	a	11.5	11.4	2.0	0.20			38.641	
S66	g-1	4層	1813	23	74	4			碎片	lm	8.0	8.5	1.7	0.12				
S67	f-1	4層	1809	23	74	4			碎片	d	7.7	11.4	1.6	0.11				
	f-5	4層	1765			4			剥片	d	16.2	8.5	5.1	0.40	-5494.068	-7013.061	38.897	
	e-0	4層	1806			4			剥片	m	17.5	16.8	3.4	0.91				
	e-0	4層	1806			4			剥片	d	17.6	9.3	3.0	0.55				
	f-4	4層	1812			4			碎片	f	8.9	12.8	1.9	0.13				

第3章 調査成果

表4 殿河内ウルミ谷遺跡出土旧石器一覧表(2)

掲載 番号	地区	層位	遺物 番号	挿図 番号	P L 番号	母岩	個体 番号	接合 番号	型式	部位	長 mm	幅 mm	厚 mm	重量 g	x座標	y座標	z座標	備考
	g-2	4層	1814			4			剥片	a	14.8	12.1	2.0	0.37				
	e-1	4層	1817			4			剥片	a	12.4	10.9	3.4	0.33				
S68	F4tr	4層	1529	24	74	5	1	1	剥片	a	36.9	30.1	7.5	5.47	-5494.945	-7013.304	38.873	
S69	f-1	黄褐色ホーキ混土	1700	24	74	5	1	2	剥片	a	33.1	19.9	3.3	1.40	-5490.531	-7015.192	38.297	
S70	F4	4層	1587	25	74	6			剥片(二次)	md	43.7	24.1	5.3	4.50				
S71	F4tr	4層	1489	25	74	6			剥片	a	47.7	20.1	5.8	4.77	-5492.811	-7015.673	38.504	
S72	F4tr	4層	1462	25	74	6			石核片	a	17.8	32.2	16.6	6.18	-5491.837	-7016.504	38.315	
S73	f-0	4層	1788	25	74	6			剥片	d	16.3	15.3	1.8	0.46	-5490.640	-7016.412	38.179	
S74	F4tr	4層	1490	26	74	7			石核片	a	24.9	24.5	17.9	11.54	-5492.761	-7015.785	38.520	
S75	F4	灰褐色ホーキ混土	1606	26	74	7			剥片	a	20.2	22.4	4.9	2.03	-5493.943	-7012.551	39.072	
S76	g-4	暗褐色ホーキ混土	1780	26	74	7			剥片	a	14.8	20.8	3.8	0.61				38.665
S77	F4tr	4層	1493	26	74	7			剥片	a	12.2	26.1	4.0	0.97	-5492.271	-7015.949	38.490	
S78	g-3	暗褐色ホーキ混土	1767	26	74	7			剥片	a	14.9	14.3	6.3	1.08	-5493.134	-7015.637	38.641	
S79	F4tr	4層	1501	26	74	7			剥片	a	16.9	19.1	2.1	0.52	-5493.257	-7014.481	38.601	
	g-4	4層	1816			7			剥片	md	11.3	6.2	2.9	0.20				
S80	北tr	暗褐色ホーキ混土	1771	27	74	8			石核片	r	49.3	42.8	15.1	30.06				サヌカイト
S81	F4tr	4層	1603	27	74	8			剥片	pm	21.1	17.5	5.7	1.91	-5494.232	-7013.729	38.810	サヌカイト
S82	g-1	4層	1813	27	74	8			剥片	p	15.1	16.5	4.0	0.85				サヌカイト
S83	f-0	4層	1807	27	74	8			剥片	pm	13.1	11.9	1.2	0.21				サヌカイト
S84	F4	4層	1585	28	75	非			撻器	a	44.2	39.1	15.6	24.58	-5490.291	-7013.690	38.670	
S85	f-1	4層	1809	28	75	非			彫器	a	35.1	15.0	8.6	3.92				珪岩
S86	F4	灰褐色土	478	28	75	非			剥片(二次)	a	68.2	48.9	9.6	28.37	-5492.820	-7011.564	38.323	玉髓
S87	F4	灰褐色土	477	28	75	非			剥片	a	49.8	43.5	19.4	37.48	-5493.606	-7011.567	39.586	
S88	F4tr	4層	1460	28	75	非			石核	a	35.3	17.1	13.4	8.68	-5492.048	-7016.018	38.426	
S89	f-2	4層	1759	28	75	非			細石刃	p	9.8	5.8	1.8	0.12	-5492.199	-7014.944	38.697	
S90	グリッド1	4層	1822	28	75	非			細石刃	m	12.4	5.9	2.1	0.17				
S91	f-4	4層	1812	28	75	非			細石刃	d	13.6	5.3	1.3	0.08				
S92	グリッド1	4層	1822	28	75	非			剥片(二次)	a	18.1	16.1	3.2	0.78				
S93	g-3	暗褐色ホーキ混土	1779	28	75	非			剥片	a	25.8	20.0	11.6	4.26				38.656
	F4tr	4層	1485			非			剥片	a	14.4	8.8	2.2	0.23	-5493.861	-7014.580	38.713	
	F4tr	4層	1497			非			剥片	md	14.8	7.4	3.3	0.32	-5493.405	-7015.222	38.574	
	b-1	暗褐色礫混層	1641			非			剥片	a	18.5	13.8	6.0	1.07				
	f-4	暗褐色ホーキ混土	1731			非			剥片	l	7.0	5.9	1.6	0.06	-5493.347	-7013.265	38.934	
	f-4	暗褐色ホーキ混土	1732			非			剥片	a	2.8	4.9	0.7	0.00	-5493.179	-7013.117	38.934	
	f-4	暗褐色ホーキ混土	1734			非			剥片	l	8.9	6.3	1.1	0.05				
	f-4	灰褐色礫混	1753			非			剥片	a	11.3	11.5	1.2	0.08				
	f-0	4層	1808			非			剥片	a	12.6	7.1	1.9	0.22				
	f-3	4層	1811			非			剥片	a	21.4	20.2	5.4	1.83				
	f-4	4層	1812			非			剥片	a	8.4	5.6	1.7	0.07				
	g-2	4層	1814			非			剥片	a	4.5	16.0	3.4	0.17				
	g-2	4層	1814			非			剥片	a	18.3	8.0	3.3	0.37				
	g-2	4層	1814			非			剥片	a	15.3	19.7	5.4	1.12				
	e-5	4層	1819			非			剥片	r	10.8	10.7	4.6	0.37				